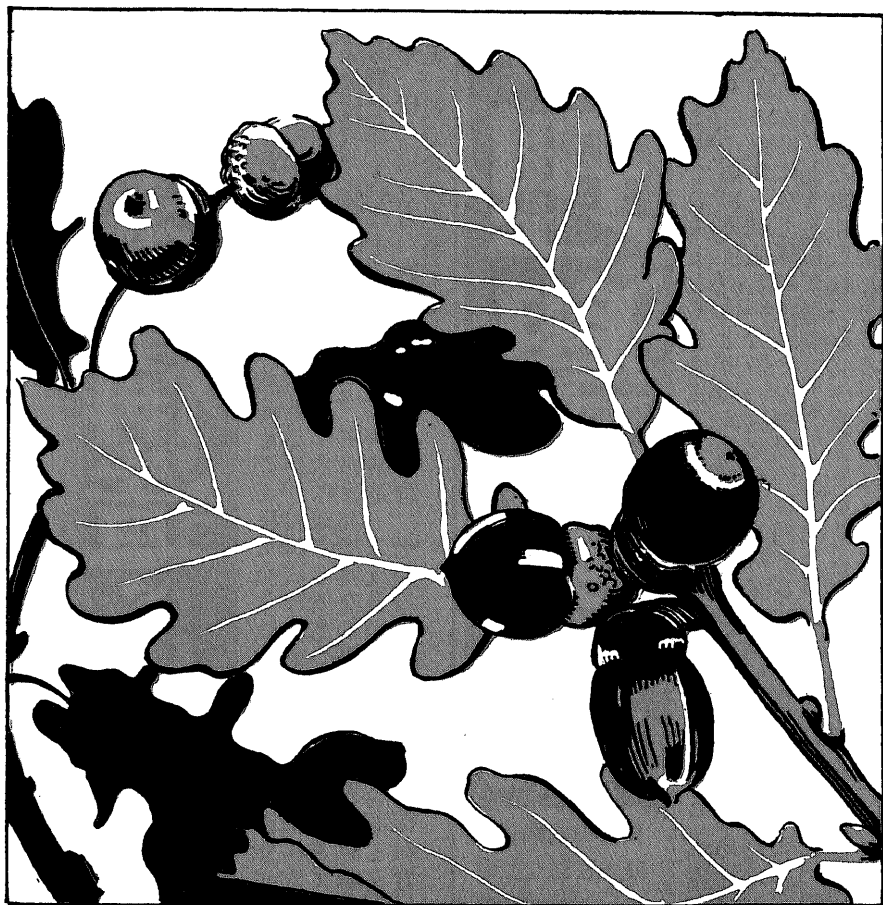


# 幼 兒 の 教 育

第 十 號 十 月 第 三 十 七 卷



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內  
日 本 幼 稚 園 協 會

廣島文理科  
大學教授

文學博士久保良英著

菊判洋綴紙數三百頁  
定價金二圓八十錢

送斜廿一錢

新刊

# 兒童の精神構造と指導

本書は心理學上より兒童の精神構造を科學的に解剖し、體係を立てて以て兒童教養の根本義を確立せるものである。兒童の教養は次期の國家の消長を決するものであるが、特に現今我國は非常の時局に立ち何事にも國民總和の力を以て當るべきの秋である。著者はこれに大に感ずる所あつて、世の教育家父兄の爲に特に本書を著したのだ。先生は我邦心理學界の泰斗で、本書は其深奥なる學問と豊富なる經驗との完全なる融合である。左に其大綱を擧ぐれば……一幼兒の精神構造 二玩具の選び方 三言語と文字の交友についての注意 五問題の子供の導き方 六家庭に於ける知育 七美の情操陶冶 八道徳教育 九宗教教育……一般教育家は勿論一般識者の必讀を望む。

東京高等師範學校教授

文學博士

小野島右左雄著

# 心理學要説

菊判紙數四百頁  
定價金二圓十五錢  
送料一十二錢

教育の基礎となる  
新しい心理學説

文檢要書

心理學の問題は嘗ての機械説より生氣説、準機械説等幾變遷を経てゐるが、體制に於て重大なる進歩と新らしい分野の開拓とを意味するものである。之は人間科學の諸領域に當つて著者は本書に於て單なる紹介や學説の羅列をさげ、専ら見方を教へ考へるに當つて、傍諸家の説に於て、一方其内省よりして東洋思想の色彩も又濃厚である。論を以てし、この心理學の成果に基づいて叙説しようとする試みは、本書の卷頭に述べられてゐるが、此の意味に於て又一般知識人の必讀を俟つものである。

振替電話 東京三三三番  
東牛込 四二番  
西牛込 二五番

店書館文中

發行所 東京市牛込區 辨天町一丁目 七四

新刊

日本の旗日の丸の旗

倉橋惣三作詞  
小松耕輔作曲

戸倉ハル振付

色刷表紙四六倍判音譜及び振付  
説明  
定價送料共一冊 金參拾錢  
前金振替或は參錢郵券を添へ  
冊數及び送先き明記申込次第直  
に送本す

此の時局、幼兒兒童に何を唱はせませうか。どんな遊戯をさせませうか。本會は、今日此の新しい唱歌と遊戯とを全國の幼兒兒童の前に贈り得ることを最も欣快とするのであります。願はくは、皆さまのお力添へを俟つて、幼稚園に、學校に、家庭に、街頭に、津々浦々に、此の唱歌遊戯の流布を見るに至り得んことを。之れが本會の遠慮のない望みであります。

尙、此の刊行によつて得た金額は、實費を除いて悉く國防費に獻金致したのであります。此の趣旨にも御共鳴下さつて、一冊でも多くご購入下さい。又廣くお勧め下さい。一冊の御購買は即ち同時に國防獻金となるのであります。若し各幼稚園が此の意味に基いて、取りまどめて御註文下さるようなことまで願へるものなら、此の上ない幸であります。そのために表紙も美しい色刷りの家庭向きにして置きました。右本會の二つの希望を御協賛願ひます。

發行所

日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町三十五  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内  
振替口座東京一七二六六番

# 幼児に適する手技を募る

株式会社フレーベル館創業三拾周年記念  
保育研究資金による懸賞募集第二回

## 募集規定

- 一 應募作品は幼児に適する手技たること。
- 一 主題、内容、材料は隨意。
- 一 幼稚園、託児所保母諸君の考案自作品たること。(必ず製作の説明及び工作圖を添へること)
- 一 應募點數任意。
- 一 荷造に注意して送付されたし。
- 一 應募者は宿所、氏名(誌上匿名隨意)及び奉職園の名稱、所在地を明記のこと。
- 一 日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)手技募集掛宛のこと。
- 一 締切 昭和十二年十一月末日
- 一 發表 昭和十三年二月十五日本會發行の「幼児の教育」誌上。入選作品は本誌に掲載し、賞状及賞金を贈呈します。
- 一 フレーベル賞
  - 一 等一名 金貳拾圓 二等二名 金拾五圓 三等三名 金拾圓 選外佳作五名(賞品贈呈)
  - 一 審査 (五十音順)
    - 朝原 梅一氏 及川 ふみ氏 岸邊 福雄氏
    - 倉橋 惣三氏 田島 眞治氏 山形 寛氏
    - 和田 實氏
- 一 作品は一切返却しません。
- 一 尙御不明の點は往復はがきで本會手技募集掛宛お問合せ下さい。

## フレーベル賞に就て(再録)

此の度、株式会社フレーベル館社長高市次郎氏より、同館創業三十周年の記念として、左記の通り、保育研究資金を全國保育界に對して提供せられ、その適切なる使途につき本會に委託せられました。我國保育界のために誠に欣慶事であります。就ては、本會はその資金を保管致すと共に、特に實行委員諸氏を御依頼し御協議を願ひました結果、先づ第一案として、保育上切要なる研究課題を設け、全國幼稚園並に託児所の保母諸君の御應募を乞ひ、此の資金を以て其の賞に當つることになりました。その課題は順次に各方面に互ることとし、その方面毎に權威ある審査員諸氏の嚴正なる審査を経て贈呈し、その賞をフレーベル賞と名づけることも御相談ありました。

## 一金壹千五百圓也 保育研究資金

昭和十二年四月十二日

株式会社フレーベル館 社長 高市次郎

右御披露と共に、全國保育界諸賢が奮つて此の計畫に御賛同御援助下さるやう切にお願ひいたします。

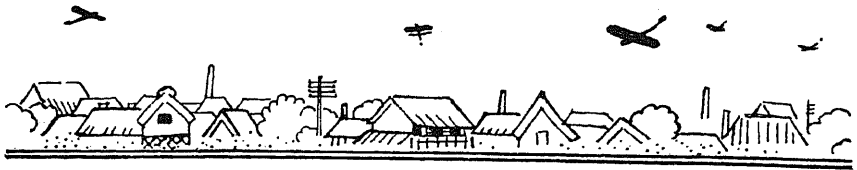
昭和十二年四月二十一日

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

## 日本幼稚園協會

實行委員 (五十音順)

- 青柳 美智代氏 朝原 梅一氏 及川 ふみ氏
- 兼 信 學氏 岸邊 福雄氏 菊池 ふじの氏
- 倉橋 惣三氏 新庄 よしこ氏 高崎 能樹氏
- 田島 眞治氏 土川 五郎氏 和田 實氏



號十第 育教の兒幼 卷七十三第

—(次 目)—

口繪	倉橋惣三(一)
卷頭—現下の時局と幼兒保育	倉橋惣三(一)
國民教育家及び女子教育家としてのフレールベル	.....
.....	エツアールド・シユプランカー(四)
子供と環境(三)	山下俊郎(二〇)
子供黨列傳(三)	石井庄司(二五)
ビスケットとお猿さんのお話	武田雪夫(二九)
入選童話「蟲の洋服屋さん」	菅野ミチ子(三六)
” 「カツボミ蛙」	山本ユキ(四一)
幼稚園を覗く(三)	竹村 一(四六)
幼兒童話審査員會の夜	記 者(五〇)
幼兒教育の文化性(二)	倉橋惣三(五三)

再版

日本幼稚園協會編

# 幼稚園談話集

菊版三五〇頁  
定價金壹圓五拾錢

郵稅  
市內 金六錢  
地方・北海道  
臺灣・樺太  
朝鮮・滿洲 金拾五錢

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編、系統的保育案の實際とは非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まとめにした書物がないかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものと思ひます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたゞけば幸いです。

四版

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

# 系統的保育案の實際

定價 金壹圓

送料 金六錢

一保育案の實際は幼稚園必須の資料  
一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考  
一待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

月刊

# 幼兒の教育

一ヶ月 金參拾五錢

一ケ年 送料金一錢  
金四圓貳拾錢

送料 共

幼兒教育に關する忠實なる月刊雜誌として、眞に全國幼稚園、託兒所の方々のものたらんことを切望してゐます。

發行所

## 日本幼稚園協會

○定價及郵稅を添へ本會宛直接御註文下さい。

東京市小石川區大塚町卅五番地  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內  
振替 東京一七二六六番



附屬幼稚園雅園

— 園 九 小 子 一 等 —

# 幼 兒 の 教 育

昭 和 二 十 年 十 月

## 現下の時局と幼児保育

倉 橋 惣 三

我等の心は現下の時局に聚注されてゐる。北支南支に於ける我が忠勇の將士を想ふ  
心で胸一ぱいである。その中で、常の業に對して常の心をも失はないことは、確に一  
つの努力である。時局外に立つての平常ではない。そんなことは、今の日本のまことに  
もあり得ない。時局内に在つての平常への緊張、たゞの平常よりも一段一層に強固な  
平常心、それが今日の我等の生活である。幼児保育に於てもその意味で一層一段の緊  
張が、日本の幼稚園ニ保育所ニの隅々にきつちりニ充滿してゐる。

しかも、今の幼児保育はそれだけの緊張で止まらない。國の非常時は國の將來に對  
して遠い慮りに耽らせる時でもある。現下素より一心不亂であるが、國は長い。恐ら  
くや非常性も亦長いであらう。幼児保育の必要がその將來感の嚴肅性に於て嚴肅にあ  
らざるを得ないのは、苟も思慮をもつ何人に於ても同一でなければならぬ。あの、  
勇壯無比に戦つてゐる勇士を想ふにつけても、その後を嗣ぐものとしての、強い日本



人の心身の健全な發達を誰れが引受けるか。強い日本人の善良な性情の涵養を誰れが受けもつか。今こそ幼児教育者が、その職責を任務を眞に日本に結びつけて自覺する時である。

勇士は國のために壯途にのぼる。その後をしつかり留守して、あの勇ましき父達兄達に後顧の憂なからしむるは、銃後のつごめの第一である。そのために、各方面の問題が多くあるが、愛兒を愛弟の養護保育に後顧の憂なからしめることも亦、緊急のこゝみである。否、それこそ最も緊急務である。幼稚園を保育所とは、その意味で特別の責務を自覺する。おこさんのこゝみは引受けてゐます。安心して國のため戦つて下さい。之れは、非常時幼児保育の高唱の聲である。

男子が外に出て戦ふ時、内に婦人の用務が増加するのは當然である。平生の婦人活動の外に男子活動の分まで働かなければならなくなる。それは非常時婦人の義務である。たゞ、その婦人が母である場合、その非常時活動の忙しさは、おのづから、その愛兒の愛育の暇を少なからしめるこゝみなしにしない。それも構つてゐられない忙しさが已むを得ないだけに、愛兒の方に如何に氣のひかれるこゝみかこも察せずにはゐられない。察する察しないでなく、事缺くところあるのは何さか補はねばならない。平生でも家庭教育を補ふこゝみを任せてゐる幼稚園、保育所の任務は、こゝに非常時的緊急性を加へられ來るのである。おこさんのこゝみはいくらでもお手傳ひします。安心して國のため働いて下さい。之れも非常時幼児保育者の高唱の聲である。いつもは男がする仕事を引受けて二本のたすきをかける非常時母性のために、非常時保母も二本三本のたすきをかけずにはゐられないのである。

時局の緊張は國の土に溢れ、國の空に漲る。國。國。國。勿論平時も雖も一刻も忘れない國である。しかも、特に國民全體の全體の時間に國の意識が強められてゐる今日である。それが幼児達にも素より反映せずにはゐない。その反映を適切に指導し、強化してゆくのは、今日の幼稚園と保育所との力を籠める保育工夫でなければならぬ。幼児保育も國家意識。これは保育の目的論としては、それだけののはつきりしたところであるが、保育の方法論としては、必ずしも無工夫では正しく實行し難い問題である。それが、今日此の時に於て、最も自然に、最も適切に、又、恐らくや最も容易に、隨所隨時に實現し得るべきである。勿論、そのために幼児に非常時局を語り教へるばかりがいゝ方法ではない。それ以上の周到さに於て、國を感じさせるのでなければならぬ。而して、それが今日最もよく出来るのである。

あなたの幼稚園保育所で、此の時局を幼児にさう反映させてゐられるか。此の時局がさう幼児教育的に取扱はれてゐるか。——こゝでは私は、そこまで細かいことはおたづねしまい。たゞ、問ひたいのは、此の時局が、保姆諸君自身の心に、實生活に、さう反映してゐるかである。——これも、今更事新しく問ふ必要がないであらう。たゞ、是非々々知りたいことは、その、あなたへの時局の反映が、さう幼児達に再反映してゐるかである。

之れに對して、種々の貴い答へが與へられ、報告が提出され得るであらう。その一つ／＼が皆立派な事であることを疑はないし、夫々種々であつてこそ、真にいゝ時局の保育が完ふせられるのであらう。しかし、あの反映法、この反映のしかたの必要と共に、一番の中心が、あなたを平時以上に保育常道の保持者たらしめることであるのは言ふまでもないであらう。

我等の心は現下の時局に聚注されてゐる。北支南支に於ける、我が忠勇の將士を想ふ心で一ぱいである。この時、内に於て國家將來のための保育と教育とに當る。あゝ實に平常の我等ではないのである。

# 國民教育家、女子教育家としての

## フリードリッヒ、フレーベル

ベルリン大學教授 エツアールド、シユプランガー

昭和十二年九月十二日東京女子高等師範學校に於ける講演。

前伯林大學東京語研究所講師 姜世馨氏譯

女子も男子と同じく國家國民に奉仕する義務を有することは尤もな真理である。單純な文化關係に於ては自ら兩性間の分業が生ずる。女子の行くべき道は先づ女子の生物學的制約に依つて明らかである。女子は、妻であり、母であり、主婦である。然るに、もつこ複雑な文化關係に於ては、兩性間の權利義務の限界問題が考察の對象であり、場合に依つては争の對象でもある。

西洋各國に於ては、少くも百年前から既に婦人運動が存在してゐることは衆知の事實である。この婦人運動の先驅者達は、婦人は男子の支配から解放されなければならぬし、家庭の束縛から解放されなければならぬといつたやうに、婦人は總て解放されなければならぬといふ婦人の解放要求から運動を始めたので婦人解放運動も稱せられてゐる。獨逸には、

二つの全く相異つた婦人運動の分派があつたが、世界大戦中に始めて兩派が完全に合同した事實が世間に餘り廣く知られてゐない。獨逸に於ける此の婦人運動の兩派を各自の理想に従つて對立せしめて考察するならば、一方は、婦人の權利をもつて強調し、他方は婦人の義務をもつて強く叫んだ。前者は、佛蘭西革命に由來する「自由、平等」を標語とし、この要求を婦人に敷衍してゐる。このこゝは、實際に於ては、各種の職業を婦人に解放し、大學の女子收容及婦人參政權を意味するものである。それに反して他の一派は、道德的協同體としての家族を國民から出發する、此の一派は雖も、男女の同價性は主張するが、文化的活動に關する婦人の男子に對する同質性を主張するものではない。此の派の婦人運動は、婦人の有する特有性、生物學的、精神的特有才能を以て、國民文化の建設にもつて強く協力せんとした。それ故に、家族精神をして國民生活を支持する中心精神たらしめやうとした。就中、婦人が家庭に於て特にその效力を發揮する力を更に進んで、結局は家庭の總體であるこゝろの國民全體に迄擴大しようとしたのである。

此の婦人運動を二つの派に分けて比較對照するこゝは、聊か粗雜の感がする。實際に於ては、この兩派間には、自然に共通した點もあつたし、又融合の出来る點もあつたのである。しからば、この兩派の婦人運動の中には結局一つの婦人獨得の潮流があるが、このこゝが何に依つて確證されるかといへば、それは二人の國民教育思想家にその源を汲んでゐるこゝに在る。即ちペスタロッチとフレールの思想に於てである。

瑞西のペスタロッチは獨逸テュリンゲンのフレールの生涯は一七五〇年乃至一八五〇年の約百年間に亘つてゐる。恰もこの時代は歐羅巴に於ける家庭生活關係及家庭についての道德的精神が廢頽し始めた頃である。此の廢頽にはまた種々の原因がひそんでゐるが、其中の最も本質的なものを挙げれば、個人主義的自由要求の源行、産業膨脹である。ペスタロッチとフレール、この二人の教育家は、それに對して、母と子の本原的關係をその神聖性に、道德的高潮に再び引

上げたのである。この二人は母及妻の教育上の力を恢復し且つ強化しやうとした。家庭の醇化は家庭の健全は、國民健全の樞軸をなすものなりといふ昔からの眞理を更に新しくしたのである。しかる故に、この二人は純眞なる國民教育家なつたのである。彼等の教育思想は十九世紀に於て、その國境を遙かに越えて全歐米に擴がつた。既にこの事實が教へるやうにこの二人の教育家は、教育には國民精神のみならず、永遠なる人間的力が潜んでゐることを摘發したのである。私は今日、種々の點に於てベスタロッチの直接の弟子であつたまことのフレーベルの姿に於て、國民教育、人間教育、及び健全なる婦人運動が如何に相關聯してゐるかを説いて見たい。

フリードリッヒ、フレーベルは幼稚園の創設者として廣く世界に知られてゐる。しかし幼稚園は、彼が種々研究した彼の全教育の中の一部を意味することを多くの者は忘れてゐる。この思想は、實地的事業の内面的關聯に就いて述べて見たい。フレーベルは、自分の教育學の中心用語の中に「レーベンスアイニグング」(生の合)といふ表現を見出す。フレーベルに依れば、合一調和さるべき生は三つの極を中心にして動いてゐる。即ち母と子、神と自然、幼稚園と國民である。此の三つの極に該當する彼の三大著作の表題を記憶するに、一、母と愛、二、人間教育、三、幼稚園と作業道具に就いての諸論文である。

## 第一

私は、第二番目に擧げた「神と自然」から始める。といふのは、この點についてのフレーベルの思想の中には彼の全世界觀の輪廓があるからである。フレーベルは、彼がまだ一歳の時に母を亡くしたといふことを我々は記憶しなければならぬ。

彼は少年時代に母の愛を受けることができなかった。そこで、この孤獨な子供は早くから自然と交渉を結び、自然から生の祕密をさぐり、自然の中に動いてゐる愛を求めやうとした。フレーベルの教育學の背景には一種の神祕的、象徴的自然

哲學がある。

今日、フレーベルの幼稚園に足を踏み入れる者は、そこに、フレーベルが「發明」した獨得な子供の作業道具と特種な遊戯のあることを多分見出すであらう。こゝに私は二つの註釋をつけなければならぬ。即ち私は、フレーベルの幼稚園に入るものは、そういふものを「多分」見出すだらうといつた。何故かといふのに、私が七週前前に、この建物の中に催された盛大なる教育展覽會を最も深い印象を以つて見たのであるが、その幼稚園部に於てさういふものを見るこゝが出来なかつたからである。けれども、かういふことは獨逸に於ても有り得る。次に私は、フレーベルが「發明」したと云つたのであるが、これはまづいふ方である。然らば、それは何を意味するのであるか。それは先づ、球又はボール、次には正六面體、最後には紙、粒、箸、等で種々の形のものを作り、各種の刺繡を指すのである。それでは何故これが問題になるのか？その背後に如何なる意義を秘めてゐるのか？

フレーベルの根本思想は、子供は自然と共に生きてはならぬ、子供は自然の内面に入り込んで生きねばならぬ。子供は自然と合一する能力を得なければならぬ。昔の觀察に依れば自然は四つの世界から成立つてゐる。礦物界、植物界、動物界、人類界これである。人間は自分の内面を學んで始めて自然の内面を識ることが出来る。人間の魂は内面性のものである。礦物とか、植物とか、動物に就いて我々は先づ表面的形態だけを知る。しかし、これ等のものも亦内面的なものを有つてゐる。何故なら、自然のあらゆる段階に神の力が生動するからである。全自然界は唯一の神の力の一表現である。此の唯一の神の力は自然界の諸段階を通じて遂には人間の段階、終には人間の魂の段階にまで昇つてゆく。それ故に、自然は象徴的に理解しなければならぬ。自然がその各種の段階に於て守つてゐる法則は自然を産み、自然を働かせるこゝろの神の活動法則である。

人間が自分の形態を充實に到達するには、神の力が自然の諸段階を通過したところの、その種々の段階を歩み順次に通り過ぎなければならぬ。これがフレーベルの進化思想である。彼は、元來この進化思想を最低段階の爲めに完成し、専ら教育學的に、幼稚園年齢者に應用したのである。

最低段階は礦物界で、その普通のものとは結晶體である。自然が結晶體を形成するに如何に簡單な法則に従つてゐるか、又如何に正確な形態を結晶體は創つてゐるか、我々人間にまつて何時も驚嘆に堪えない。フレーベルはこのことを彼の象徴的自然哲學の中に、神の力の本質的表現をいつて説いてゐる。

神の力の本質的表現の最も簡單なものは、太古の觀察に依れば、球である云ふのは、球は一の中心點から何れの方向にも全く一樣に作用するからである。神は、この球の中に最も粗朴な表面的形に於て生きてゐる。その次は正六面體である。こゝには特に三つの根本方角(三つの延長)が強調されてゐる。

同時に、新しい要素を以て六つの面、八つの角、十二の邊が現はれて来る。圓を四角形に結びつければ中間形の圓筒が出来る。この三つのものが一緒になりて、即ち正六面體の上に圓筒を重ね、その上に球の冠をのせたものがフレーベルの墓碑である。

此の三つの根本的形相の外に又多くの正格體があるが、これらはその樞軸を換へるこゝに依つて成立するものである。其中の多くのものは結晶界に見出される。神に充滿してゐる自然は、恰も正格的數學的形想を以て戯れてゐるやうである。

自然は實地の數學をやつてゐる。私は、フレーベルの學問上の研究方面が結晶學であつたこゝを序に云つて置きたい。彼の先生ヴィツスマいふ人は、結晶の諸様相を中心線の原理に依つて整列した始めの人である。

かういつたやうなこゝは、皆教育學上の問題を甚しく離れる觀があるやうに見えるが故に、私は急いでその應用に入り

たい。フレーベルの根本思想は即ちかうである。神は自然の創造主であり、自然のあらゆる法則の創定者である。總ての子供に十分なる精神的發達をさせるには、云はゞ自然をもう一度模倣しなければならぬ。それ故に、子供が先づ最初に交渉を持つべきものは球又はボールでなければならぬ。子供のための最初の贈物は六色に彩る毬である。この毬は獨得な運動法則を教へる。この毬を或は絲につないで下げておいてもよい。もつみ内容の豊富なのは正六面體である。この六面體について、先づ教へられるこゝは、それが決して角ミか、又は邊では立てずに必ず面で立つこゝいふ法則である。子供はこの六面體の本質ミ「生の合一」が出来る迄接觸を續けなければならぬ。茲に於て、フレーベルは、「六面體は己れ自身を教へるもの」だといつて、方向を換へて考へた。この考は非常に重要な一般的思想である。即ち總ての正格體は、それを取扱ふこゝに依つて、基礎數學の無言の教師であるこゝが解る。世界のあらゆる形成物は、その存在ミ行爲の法則ミを明らかに表明するが故に、我々はそれに教へられてゐる。

フレーベルが子供の作業道具として作つた第一の贈物は種々の六面體を入れてある六面體の箱である。その中のあるものは平板又はピラミットの形をしてゐる。積木はかういふ風に出來てゐて、子供にこつて無限なる作業手段である。こゝいふのは、子供はこの材料について作業をすべきで、繪本のやうに眺めてゐたゞけではいけない。この場合に子供にこつて重要なこゝは實際に經驗する數字、實際に經驗する靜學及動學である。大人の建築家は、その取扱つてゐる建築材料に精神を打込んで生きてゐなければならぬ。抑々家を建てやうとする衝動ミ、人間を教育しやうとする衝動ミは互に深い關係があるやうである。

積木で三種の形式を作るこゝが出来る——即ち認識形式、美の形式、利用形式これである。例へば星の形ミか、十字形のやうなものは美的價値を有する。最後には椅子、机、門、自動車のやうな必要用具を積木で作るこゝが出来る。



それ以外のフレーベル式の子供の作業道具は、分析(分解)と総合(組合せ)の相反したもから成立つてゐる。これらのものにも、その根本問題は矢張り萬物を支配する法則の體驗にある。

一 分析(分解) 立體から平面に、即ち卓を横へる、

平面から線に、即ち箸を竝べる。

線から點に、即ち粒を竝べる。

二 総合(組合せ)

點から線に、即ち硝子球を糸に縛ぐ、或は點で描いた形を縫ひ合せる。

線から平面に、即ち細長い紙片を合せる。

平面から立體に、即ち紙を種々な面白い形に折る。

これが、幼稚園兒童の作業道具の基本となる「哲學的」根本思想である。子供は模造された小さい神であつて、常に自由に玩具を以て作業するやうに遊ぶが、無意識的に法則の支配を受けながら働くもので、先づ數學的法則、次に物理學的法則の支配下にある。

併し、フレーベルの教育哲學は、これだけは未だ完全には云へない。子供が固體(物體)と交渉を持ち、生の合一をした以上は次には植物界、動物界の如き有機體の段階がなくてはならぬ。フレーベルは、この思想を完成しなかつた。けれども、彼は以上の同じ方法でこの思想の完成をしたらうと容易に考へられる。フレーベルは、先づ植物界に於ける正格數の關係に意を用ひた。たゞせば、木の葉の數とその位置。フレーベルは、この同じ原理を動物界に於いても探究するこゝが出来たに違ひない。しかし、それだけでは本來の有機體の生に彼は深入りするこゝは出来なかつたであらう。

フレーベルのイテエは多くの點に於て、ゲーテの自然科学の根本思想と相通するものがあつた。さいつても、ゲーテの植物の變形説、原形から各種の形相へ變化する植物法則説なきがフレーベルに強い影響を及ぼしたことは信ぜられない。フレーベルは、寧ろ浪漫論者達の見解を一にし、植物界に於て、人間の情緒状態を指す象徴を認めやうとした。就中、白百合はフレーベルにまつて、純潔と静寂の象徴であつた。情緒は、その内面的法則に従つて、中から自由に發展するので、フレーベルにまつて最高なものであつた。このやうに子供も母體から成長しなければならぬ、子供の成長もそのやうに優しい手を導かなければならぬ。この考へ方の中には一種の神祕的傾向があるが、さいつてそれは決してありふれたやうなものではない。フレーベルは、寧ろ神の創つた大地を足で固く踏みしめ、頭では神のゐる天に觸れるやうに、小さいさきから人間を教育しやうとした。

フレーベルは、それに相應しい二つの教育原理を有してゐた。先づ、彼は兒童達と共に自然の中に生きやうとした。彼はルッソーの組立てたやうな自然ではなくて、眞實な自然を兒童の教師にしやうとした。兒童は、この自然の環境を内面から習得して自然の形式と法則を意識するやうにならなければならぬ。この場合、特別に重要な役割を演ずるものは郷土の周圍に關する地質學及び地理學である。

それから、第二には、内面的理想の人間を精神の奥から取り出して來なければならぬ。キリスト教の世界では神人を「クリストウス」と呼んでゐるが、佛教で言ふ「佛陀」と同じである。内面的法則に従ひ、イエス、キリストを手本にして生きるこゝがつまりは最高の目的であつた。この最高の目的は、フレーベルに依れば、多くのクリスチャンに於ける場合の如く、自然生活と對立するものではなくて、クリストの情緒は自然の王冠であり、自然の完成であるさ見てゐる。新羅萬象はれ悉く神より成り、又悉く神に向かつて努力する。自然と法則の中に充満してゐる神は、それに永遠なる統一を與へて

る。「生の合一」云ふ語は、つまりあらゆる自然の段階に於て本源的神を合一することであり、神を再合一することである。自然に於ける生の過程は、内面的なものを表面化し、表面的なものを内面化するところにある。更に換言すれば、肉體に、運動に、作業に精神を表現することであり、又この表面的形態を更に精神の中に容れることである。この相互現象は、目に見える方法だけで行はれるのではない。旋律の如きものは、矢張り或程度の精神的なものを表明する。リズムに合せて體を振れば一種の精神の動きを感じる。更に進んで、世界の律動に身を合せるならば、自らの精神に尺度を秩序を感じず。

もつて簡單に言へば、フレーベルの教育思想の哲學的背景は一種の萬有自然象徴論であつて、自然の各段階、總ての物、總ての本質、は悉く神の創造力の表現であり、寫繪であるといふのである。生の合一に依つて、自然のあらゆる形成物を十分に體驗すれば、神の愆する尺度、旋律、形式、法則を實現するのである。太古の思想に曰く、「自然は神の書或は數字である」云つてゐるが、これを全く同じ形の「自然は神の說話であり、言葉である」といふ説がフレーベルの哲學に還つて來たのである。フレーベルは曾てその書翰に言ふてゐる「我が創造主は、親愛なる父として、要請を法則に依り、無限なる象徴を示し、感性的なもの、超感性的なものの中に於て我々に知らせる」こと。例を擧げて云へば、植物の中でも生命の體系を表現する樹木の中に、又世界の體系を表現する四季、太陽系の法則の中にこのことを認めることが出来る。

## 第二

(A) フレーベルの中心用語の「レーベンスアイニング」は日本語に翻譯することは容易でないかも知れぬ。この言葉の意味は、あらゆる生は自然の中に於て本源的に一である、といふことである。全體生活から離れた一個體の有する獨立性、孤立性は唯外觀に過ぎないのである。個體は更に普遍的生に結びついてなければならぬし、普遍的生の法則を充たさな

ればならぬ。この合一をフレーベルは「レーベンスアイニグング」を稱んでゐる。佛教に於ても同じやうな思想が見出される。けれども、フレーベルの云ふ「レーベンスアイニグング」は宗教的經驗をか、向上した情態だけではなくて、同時に個體の生長の過程でもあり、教育の過程でもある。この本原的關係の中には、二つの本質的なものゝ最も深い關係にある。「生の合一」を、それより生ずる新しい個體との輝かしい關係が共に含まれてゐる。それは即ち母子の關係である。この生の帶は、中世紀のキリスト教に於ては聖母マリヤミ幼兒キリストの姿に理念化されたのである。キリスト教的畫壇に於ける最高の作品も、文學に於ける最上の詩歌も皆、神人一體の神祕に關するものであつた。來世への生の認識が現世への生の認識に、漸次其地位を譲つてゐる際、宗教的なもの、形而上學的なもの、神祕的なものを、母子の關係に固執したものはベスタロッチミフレーベルであつた。就中、フレーベルは形而上學的説明に終始した。母ミその産む子ミは互に言葉を用ひずによく理解する。母ミ子ミの間には強い生の帶がある。母子間の最初の交渉は音樂的、旋律的である。此の二つの魂の中には同じ旋律が動く。この連結は言葉よりもつミ早く、概念よりもつミ早い。フレーベルの天才は、彼が男でありながら、この母子間の無言の生の關係を看破したこゝにある。フレーベルの哲學は、母子間の生の感覺にある、尤もこれは、言葉ミ哲學用語に移しての云ひ方である。母の心臓は子の心臓と一緒に打つ、子は母の優しい態度に、もつミ深い意識を感知する。母の素れてゐる感情は子供の發達を妨げる。母の情緒生活の柔かい旋律は子に移る。教育家、フレーベルは、この言葉のない最初段階に於て既に最初の教育に著手せんミした。この初期教育は未だ音樂的、旋律的であるに過ぎない。「母の愛歌」の中に於て、フレーベルは、先づ手でやるやうな、母ミ子が各肢體を動かして、音樂をやる事を母に教へる。この音樂的遊びはその都度、文學的には餘り價值のない簡單な詩句を云つてやる。それが濟むミ次には他詩句が續くミいふ具合にやるのであるが、この詩句は母にミつて、子供ミの接觸の最も深い象徴的意義を暗示するものである。

フレーベルは、その書翰の一節に特に強調して、「子供が象徴的生活關係を薄々感知してゐることを私は確信する」。このことは、總て言葉に先立つころの「レーベンスアイニグング」(生の合一)といふフレーベルの思想に依つて理解出来る。茲に、フレーベルは又母の教育家にならうとする。彼は母の概念を深めてゐる。母はその子の生活を肉體的ばかりでなく、靈的、精神的に發達させるべきことをフレーベルは教へる。

斯ういふことも、彼の廣汎なるプログラム(計劃)の單なる一部分に過ぎない。彼の最後目的は女子を教育者になるやうに教育することであつた。女子の愛をして、人間教育の爲めの力になるやうに發展せしめなければならぬ。愛は女の天性である。女の愛は總ての人間生活を包含するのに反して男の天才は常に限られて一定の方面に作用する。女の有する教育的愛の力を發達させやうとフレーベルは企圖した。「キンダーガルテン」即ち幼稚園といふ名稱は元々、前に述べたやうな子供作業道具即ち玩具を子供達に頒つたために出來た婦人會を稱したのである。それから後になつて、「キンダーガルテン」云ふ名稱は、小學校に入る前の兒童を教育する施設を云ふのに使はれた。幼稚園は託兒所とは其趣きを異にしもつて深い意義を有するものである。

元來フレーベルが問題にしたのは、國民のために母を教育することにあつた。此の點が又、彼の國民教育事業になせる大貢獻である。子を産む女は悉く母である。然るに、女子は果して、そのもつて深い本分を常に意識して居るべき云へない。フレーベルは、母の情緒をして、世界の深奥な神秘との關係を意識せしめるように啓發せんとした。未だ母にならない女子は國民幼稚園で働くことが出来る。私は茲に「幼稚園哲學」でも稱すべき思想に就て論じた。この種の哲學は兒童の活動衝動を自然の根源層から探究するものである。モンテッソーリ夫人も亦兒童の自發的活動の爲め效果的に努力したのであるが夫人は主として感官訓練と判別の訓練に力を注いだ。モンテッソーリ夫人の見解に依れば、感官は

物を質を知覺するに止まる。しかるに、フレーベルに依れば感官は更に、隠れたる物の魂をも解明するのである。モンテツソリー夫人は、學ぶまゝいふことを前提にしてゐるに反して、フレーベルは兒童の遊びは人間教育にまつて測るこゝの出来ない價值があるを強調する。子供の時に自由に遊んだもののみが事物を生を共にし、後には事物の法則を完全に識り且つ感ずるやうになる。此の自由な遊びの中に、子供はやがて、永遠の必然性も法則性の眞剣さを知る。「何故なら、法則のみが汝等に自由を與へるからである」。詩人シュルラーの云つた通りである。ゲーテもカントも同じ思想を持つてゐた。これこそは獨逸理想主義の根本思想である。これを今の我々の場合に應用すれば、母も女は、自然の永遠的法則に従へる人間生活の永遠な法則の保護者であり且つ獨逸婦人でなければならぬ。

(B) フレーベルは婦人の生活、婦人の愛、婦人の情緒に就いて非常に繊細な理想を持つた。このこゝは、一九三五年始めて發表された彼の有名な「婦人に與ふるの書」が證明する。けれども彼は又全くの男であつた。一八一三年ナポレオンに反抗する獨逸獨立戰爭に彼は義勇兵として參戰した。彼は又、獨逸國民に始めて深き國民意識を與へたころの、あの獨逸の大哲學者フイヒテに多く學んだ。フイヒテ自身も亦教育の大天才であつた。フイヒテは、子供を、家庭ではなく、國家に屬せしめようとした。然るに、フレーベルは寧ろ生の大法則にもつて近寄つてゐたのである。フレーベルは、子供が後日國家の爲に盡すのには、先づ始めは完全に家庭に屬せねばならぬといふことを知悉した。さういふのは、國民は結局家庭の上に立つものであるからである。フレーベルは、民族は、土地及血も不可分關係にあることを知つた。フレーベルは獨立戰爭から歸つてきてから、その郷里チューリンゲンに小さい學校を建設した。この學校は今日で云へば、一種の田園教育舎でも稱すべきものである。この學校の主なる職員は、フレーベル自身の家族であつた。しかし彼はもつと大きな國民教育所建設の計劃を考慮してゐた。この國民教育所は、家庭教育の原則にその基礎を置き、更に、自然を生を共にす

る生活原則、創造的、自發的活動ミ生の合一の原理に基くものである。如何にして、人間教育の思想ミ國民教育の思想ミが互に相結合したかが、私の今まで述べたことと理解されると思ふ。フレーベルの著書は、一八二六年に出版された「人間教育」の表題で呼ばれてゐる。フレーベルはこの著書に於て永劫の形而上學的背景即ち神、自然、人間、生の合一、發展等について詳細に説いてゐる。如何なる國民ミ雖も、このやうな永遠的生の法則を輕視することは出来ない。各國民は、各自の立場からこれに對する各自の象徴を創るであらうし、各自の神話、各自の歴史、傳統、各自の國民性を護るであらう。けれども、統ての健全なる國民教育に缺くべからざるものは、家族原理、母の高貴な天職、自然の生の法則への從屬、神性の遺傳である。

フレーベルは遂、自分の教育理想の一部分しか完成出来なかつたのは全く彼の運命であつた。彼は、教育史の中に、幼稚園の創始者として、又もつゝ高い教育精神のための女子教育家として生きて居る。彼は又、小學兒童及小學校卒業程度の年齢者のために事業を完成しようとしたが出来なかつた。フレーベルの門弟の婦人連が、彼の思想を後日に傳へたり、諸外國に普及したりした。其の中の或者は、フレーベルの思想の、或部分をもつゝ嚴密に體系つけた。この婦人連は、それに依つて、獨逸の婦人運動の中から、溫き國民教育精神に溢れる處の一分派を創つたのである。この精神を稱して、婦人の有する人間助成の天職ミ云つた。

(C)この婦人運動の指導精神は、婦人が家庭にあつて建設的に支持的に活動するその力を其の儘國民全體に移さうとするこゝにある。この理想をもう少し詳述すれば、自國民文化に於けるこの種の職業を婦人にも開放して、國民文化のため缺くべからざる婦人の特殊の本質を有効に働かせるこゝである。茲に云ふのは、平等といふ抽象的獨斷論に基く、男に對する婦人の對抗を意味するのではなくて、寧ろ自然が慾したところの男女間の性質ミ能力の相異を特に強調したのである。

自然が生を作るのは、自然が既にそこに個性を慾するからである。婦人の特殊的能力が最も效果的に活動する最重要部門は、教育、保健、社會事業等である。獨逸に於ける、こゝういふ方面の婦人運動の發展は次の如き經過をたぎつた。即ち、一八六〇年以降、家庭教育、國民教育のための會が各地に出來た。かの會は民衆の爲、殊に産業労働層の爲に幼稚園を建てた。あるものは、又保育學校の様なものも設立した。かう云ふ施設の中で最も有名なのは伯林の「ベスタロッヂ、フレールベル、ハウス」である。これはフレールベルの姪の力で出來たものである。幼稚園保母の職業は、後には保護員ミが少年保護員ミかミ云ふやうな、もつミ上級のものが出來た。少年保護員は、少し年の多い少年を保護するやうになつた。所謂「少年保護」問題は益々その重要性を加へる社會教育學の主要なる一部分をなした。我國に於ては、「少年保護」事業は、家庭ミ學校の仕事を補ひ且助けるミころの國民教育の反面だミ解する。「少年保護」は最初は貧困階級のためであつたが、後には、特に大都市にあつては、發達期にありながら非常に困難なる、就中小學校出の少年の爲に働いた。少年保護ミ「少年救濟」ミは違ふ。「少年救濟」は既に危険になつて居る少年を云ふ。少年を危険にするものは、棄れた家庭關係、惡健康狀態、惡環境、又は惡性遺傳性等である。大都市に於けるこの方面の教育、救濟の爲には、家庭の力が消失すればする程、もつミ必要ミなつて來るのである。この種の救濟は、また多數の大人にも必要であつた。この事業には婦人が最も適當であつた。婦人のなした社會救濟事業は、或は經濟的救助に、或は衛生的救助に及んだ。斯様にして、社會救濟、福利事業の方面に於ける婦人の職業が出來たのである。かういつた婦人の職業を授ける學校が世界大戰直前、伯林の「ベスタロッヂ、フレールベル、ハウス」の隣に出來た。この學校は始めは、女子社會學院ミ稱し、後には福利學校ミ稱した。これミ同じ施設が各地に急速度で發展した。これに、家政教員養成所を加へるミ、もう三種の女子の高等職業學材が出來て居る、即ち保母、少年指導員を養成する學校、女子社會學院、家政教員及び手工教員養成の學校これである。



小學校教員を養成する女子師範學校は、この方面の婦人運動に屬しない。女子師範學校は、以上のやうな各學校よりも歴史が古いし、また獨立的に發達したものである。婦人運動の他の派に屬するものに於ても、同じく女學校教員も、女醫などは大學で勉強をすることに前提した婦人の職業であつた。抑々婦人に對して大學の門戸を解放したのは一九〇八年、普魯西に於てである。けれども女子大學を建てやうとした思想は、それよりもつゞき以前から擡頭した。フレールベルの甥の一人の如き一八五〇年ハムブルヒに於て、この計劃を進めたことがある。この計劃は後にはライプチヒ、ベルリンに於ても進められたが不成功に終つた。

女子大學建設の思想自體は正しかつたし、又効果的であつた。ライプチヒに於ては、醫學方面、社會的方面、教育方面の女子の高等教育機關を計劃した事もあつた。一九一一年には、短時日ながらライプチヒに女子大學が設立され、これには三つの科でも言つたものが設けられた。即ち、保姆及保導員のための教育科、副利助成員のための社會科、病院の看護婦長の爲の醫科これである。フレールベルを繞る人達の最後の目的として計劃した事があの通り失敗した後は今日に到るも尙實現されない。所謂、母性學校は一九三三年以來數學的に非常に増加して來た。けれども、この方面に關する種々の經驗を固執したり、普及したり、養成したりするやうな最高の學校が未だ無い。

吾人が今住んで居る時代は、一流の諸文化國が、國民の生存が果して如何なる建設力にかゝつてゐるかを意識し始めた時代である。國民生活の爲の永遠なる生活法則を研究し、國民を危くする危険を認識し、國民生活を幸福にする積極的方法を認識してゐる。計劃的に、民族衛生學を優生學に關する實際的規定を設けやうとする。同時に又、民族保健のため、遺傳病豫防のためには産兒制限の必然性を知ると共に、その反面故意に依る産兒制限が如何に慎重な考慮を要する問題で

あるかをよく理解して居る。我等は、この大きな、日一日に進歩を續けてゐる事業部門を「民族保護」と名づけたい。茲に於て、この大事業のため各自民族の母と女が大いに参加すべき事が解される。ペスタロッチとフレールベルの思想を今日になつて始めてその重要性を本當に理解する様になつた。家庭の神聖は西歐にもあり、殊に民族社會主義國としての獨逸に於ては家庭の神聖を確認して永久に忘れまいとしてゐる。フレールベルは女子教育、國民幼稚園、國民教育についての自分の思想を、先づ特別な教育學的課題からして有效な衝動を與へた。フレールベルの播いた種は今はもう大きな樹になつてゐる。この樹が健全なる成長を續けるためには、常に手入れが必要である。

私は唯今、種々な點に於て我が獨逸人の模範とし且つ驚歎措く能はざる皆様の御國に於て、自分の同國人フレールベルについて只今御話致しました。我等獨逸人は、就中日本の家族生活の偉大さ美しさを感じ且つこの家族生活の基礎の上に築かれてゐる日本の政治的鞏固さに對し驚歎に堪えないものである。この基礎は宗教的に神聖化されてゐる。我々獨逸人は、日本の全民族家族、全國民の最高の位に在す陛下に對して謹みて國民の將來益々盛ならんことを希ふと共にこの難局にある現在の闘ひに光榮なる成功を得せしめられんことを祈るものである。

今この講演を終るに當つて、私は皆様がこのフレールベルに關する所説を快よく御聽取下さつた事を御禮申上ると共に、現在民族の大生活法則と時代に適した民族保存のために、眞劍の努力を試みて居る日獨兩國民族が私の今取扱つた問題に於て共通の重要點の存するこゝを確認し得るこゝを信するのである。

# 子供と環境 (三)

山下 俊 郎

## 三 遺傳と環境

さきに述べた様にして、わたくし達は環境をどう考へるかといふ、その根本の態度を定める事が出来たのであるが、そこにはまだこの根本的態度を定める上に残された大事な問題がある。それは遺傳との關係である。

さきにわたくし達は、従前の環境論は單に環境萬能を主張する「論」に過ぎない事を述べた。これに對しわたくし達がこゝに新しく主張する環境學は科學的立場に立つものであり、環境萬能論でなくて、遺傳との關係を考慮の中に入れた、いはゞ分を知つた環境學である事を説いて來た。だから、わたくし達は環境の具體的問題に入つて行く前に先づその分が、いふものであるかといふ事、即ち遺傳と環境との關係は、今日の科學的研究の結果に就いて見ればどういふ風になつてゐるかといふ事を考へて見なければならぬのである。

そこで先づ結論からさきに言つてしまふならば、今日までの研究の結果に徴すれば、遺傳と環境との關係は未だ充分には解決されてゐないと言つていゝ。たゞわたくし達はつきり言ひ得る事は、子供の個性は決して遺傳のみによつて定まるものでもなく、また環境のみによつて定まるものでもない、子供の個性は遺傳と環境との二つの力が相協力して出来るものであるかといふ事である。この遺傳と環境との二つの力の協力によつて人間の個性が出来上るかといふ説を、その主唱者たるウィリアム・シュテールンに従つて協合説と言つてゐるが、この協合説は今日に於て如何なる人々も認めざるを得ないの

である。こゝに或一人の子供の個性をみつて見るならば、この子供の現在現はしてゐる個性は、一方に遺傳いふ子供の素質を定める力が働いて居り、またこの素質を更に或る形にまでまじめ上げる環境の力——それが素質を伸す場合もあるし、また素質を抑へつけてしまふ場合もある——が働いた結果出来上つたものである。決して遺傳のみによつて、或は環境のみによつてその個性が出来上つてゐるこいふかたよつた議論は許されない。

この様な協合説は今日誰でも認めざるを得ないのであるが、實際に子供を扱つて行く上には、たゞ遺傳と環境との二つの力が相協力してゐるこ言ふ漠然とした考へでは満足出来ない。その子供のここの所までが遺傳の力でここの所までが環境の力で定つてゐるかこいふ事をはつきり知らなければならぬ。言ふまでもなく、遺傳なり環境なりの力の及ぶ範囲がはつきりこ捉めない限り、教育こ言ふ仕事は子供の上に後天的に、外から働きかける力なのであるから、内なる遺傳的の力がここまでゝあつて、外なる環境の力がここまでゝあるこいふ事がはつきりしない、その限りに於て教育の力の及び得る範囲も甚だ意味ないものになつてしまふからである。この様なわけであるから、環境の力がここまで及び得るかこいふ事は、遺傳との關係でもつて定るのである、そしてその故にわたくし達はさうしてもたゞこの二つのものゝ漠然とした關係だけでなく、その力の及び得る範囲をはつきりこ知らなければならぬ。

わたくし達はこの様な理由からして、そして環境の事を考へるからして、その力の及び得る範囲をはつきりこつかみたいのであるが、遺傳の事を研究してゐる遺傳學の方でも、遺傳がここの所まで力があるかを知りたいこいふ要求が起るのが當然である。そこで遺傳學者たちは遺傳と環境との力の及び得る限界をつかまうこしていまゝで、色々こ研究をつやけて來て居る。わたくし達は先づこの人たちの調べた所を一わたり眺めまわして見たいこ思ふ。

この様な意味の研究は大きく分けて四つの部類に分ける事が出来る。先づ第一の部類は、不良少年乃至竇笑婦こいふ様

な異常性格者の研究であるが、學者たちは、夫々の少年なり婦人なりの今日まで育つた環境を出來るだけ詳細に調べ上げて、そしてその不良行爲が環境によるか遺傳によるかを主觀的に判定したのである。次に第二の部類は次の様な方法をこつてゐる。即ち兄弟姉妹きょうだいミが親子ミか血族關係にあるものは色んな作業をやらせて見るミ普通はみんな似通つた作業成績を示すが普通である。ミところが色んな作業のうちには、主として素質的に成績の定つてゐるものミ後天的な環境の影響（例へば學校教育の影響）によつて著しく進歩變化するものミがある。この二通りの作業にもし環境の影響の力が加はるものミ加はらないものミが分れるならば、兩種類の作業能力の間には似通つた程度の違ひが起つて來る筈である。この違ひが起ればそこに環境の影響がさういふ風に現はれるかいふ事がつきりミ現はれて來るわけである。次に第三の部類は、やはり第二の方法ミ同じ様に兄弟姉妹同志きょうだいの似通つた程度を調べるのであるが、孤兒院に育つたきょうだい同志ミ、普通の家庭に育つた兄弟姉妹同志きょうだいの似通つた程度の違ひを見て、それがあつかないかによつて孤兒院の様な環境の力があるかさうかいふ事を調べやういふしてゐるのである。第四の部類は、不良兒、異常兒等が、新しい感化機關かか良家ミかの新しい環境に移つた場合、その新しい環境によつて果して影響を受けたかさうかを調べやういふするものである。先づ右のやうな四種類の方法が遺傳ミ環境ミの影響の範圍を定めやういふして試みられた方法であるが、このやうな方法は、今までの所いづれの方法によつたミしても遺傳ミ環境ミの力の範圍をはつきりミは定めてくれなかつたのである。（その理論的根據を述べる事は非常に面倒な議論になるのでこゝでは避けたいいふ思ふ。詳しくは拙著、教育的環境學を御参照願ひ度い）。

たゞ、理論的に言つて、遺傳ミ環境ミの問題を定めるのに、將來期待がかけられるのは雙生兒の研究である。雙生兒にはその胎兒期に胎盤が一つでまるで瓜二ついふ様に似通つた一卵性雙生兒ミ、胎兒期に胎盤が別々で、それ程似通つて

るない(然し兄弟姉妹同志位には充分似てゐる)二卵性雙生児がある。一卵性雙生児は右の様に胎盤が一つであるから、雙生児同志が非常によく似通つて居り、素質から言ふに全く同じ素質を持つてゐるものとされてゐる。そこで一卵性雙生児と二卵性雙生児とを比べて見る事によつて、遺傳の影響の範圍といふもの、従つて環境の影響の範圍といふもののはつきり捉へられる可能性があるのである。また一卵性雙生児であつて、雙生児同志が生後間もなくお互ひに相異つた環境に離れて生活し大きくなるに、それは同一素質に夫々違ふ環境が働いた事になるので、この成長した雙生児を調べると夫の環境の影響がはつきり拵める事になるのである。この様に雙生児の研究によつて、環境と遺傳との關係は、可なりはつきりして來る筈であるが、これは未だ解決の曙光を示してゐるだけで、仔細に考へるにそこにもまだ問題が残されてゐる。(雙生児の研究に就いても詳しい事は前述の拙著を参照願ひ度い)。

この様に見てくるに、今日までの研究の結果では、さきに既に結論を述べた様に、遺傳と環境との關係は今日未だ未解決の問題であると言つていゝ。そこでわたくし達はこの未解決の問題をさういふ風に考へ、これに對しさういふ態度を執るべきであらう、殊に教育の立場から考へるにさういふ態度をこるべきであらうか。これがわたくし達の考へなければならぬ問題である。

\* \* \* \* \*

遺傳學者達の遺傳と環境との範圍を定めやうとする努力は、右の様な次第であるから、何等効果を收めてゐないを考へられるかも知れない。然し、その努力の方向は、殊に雙生児の研究の方向によつて未だ將來に解決の可能性が暗示されてゐるのである。がこれ等の研究の示す所は、少なくとも現在在の所、未だはつきりしたものではないと言はなければならぬ。

たゞこれ等の研究の示す所をこゝで今一度ふり返つて見るならば、わたくし達の教へられる所は、子供の個性は遺傳の

みによつて定るものでなく、また環境のみによつて定るものでもない、即ち協合説が認められなければならないといふ事である。そして更にいま一つ特筆すべき事は、いままでの様な遺傳の方からする研究だけでは、遺傳と環境との關係を充分に明かにする事は出来ないといふ事である。これは子供の個性を理解して行く上に、環境の側からの研究が不充分だからである。遺傳の方から環境の方から二兩側面から改めて行つて始めてこの二つの關係の問題は明かにされるのであつて、こゝにも子供に對する環境の影響をこれから大いに研究して行かなければならない必然性が見出されるのである。

更にまた、この問題を教育の立場から改めて考へて見やう。もしも遺傳が個性の決定の上に非常に大きな力を持つてゐて、環境は無力であるといふ事になれば、教育は極めて微力なものとなり、個性の宿命論に陥つてしまふ事になるであらう。教育者の立場にあるものは、教育の力を出來得る限り發揮させる意味に於てもまた、子供の個性を環境の側から明らかにする事を努めなければならないと思ふのである。

わたくし達は、右の様にして、理論的に言つても、また實際的に立つても、遺傳との關係を明かにする爲には、環境の側から新しく研究を出發させなければならないのである。

# 子供黨列傳 (三)

山上憶良・その他

石井庄司

子供黨としての憶良の面目は「銀も金も玉もなにせむにまされる寶子に如かめやも」の一首によつて十分窺はれることは、既に前回に説いたところであるが、なほ憶良の全作品をみるに、子供に關するものが多く、愈々憶良をして子供黨としての本領を發揮させる。

「老身重病年を経て辛苦す、及び兒等を思ふ歌」の中には、自分の生活の苦しさを述べて、「特別に痛い瘡には辛い鹽をふりかけるさいふ諺のやうに、或は、甚だ重い馬荷に上荷をつけて益々重くするさいふ諺の通りに、年をこつた我が肉體の上に、病氣まで加へたから、晝は一日中歎き暮し、夜は一晚中溜息をつき、永年の間ずつと病みつけてゐるから、幾月もつゞけて悲しみ泣き、事々に死んでしまひたいと思ふけれども」、と云つて、次に「五月蠅なす騒ぐ兒等を棄てては死は知らず」(夏の蠅のやうに騒ぐ我が兒を打ちすてゝは死ぬこも出來ず)と詠んでゐる。親の情としては當然のこゝではあるが、かくまで切實に親の子を思ふ情を詠み得たところに、憶良の面目躍如たるものがあると思はれる。なほ「……見つゝあれば心は燃えぬ、かにかくに思ひわづらひ哭のみし泣かゆと結んでゐる。なほ反歌の中に、  
術もなく苦しければ出で走り去なとこ思へと兒らに障りぬ。



さいふのがある。「出で走り去な、こ思へ、兒らに障りぬ」云つて、子供を邪魔ものゝやうに詠んではゐるが、その裡に子供への愛の無限なるこを含ませてゐるこ、一誦して十分了解するこが出来よう。憶良の煩惱人たる姿であり、また世の子供黨の姿でもある。多くの萬葉歌人の中にあつて、かやうな作を爲し得たこころの山上臣憶良を想ひ、親愛の情を禁じ得ないのである。

「日本挽歌」の中に、遠い筑紫の國まで妻の慕つてきたこを詠んで「泣く子なす慕ひ來まして」云つてある。「泣く子なす慕ひ來まして」の句は、大伴坂上郎女の作中にもあるが、憶良の作の方が、少し時代は先である。恐らく憶良の始めて用ひた句であらう。僅かに一句の言葉ではあるが、面白い言葉である。子供の生活に注意し、親しんできた人の言葉さいふこができよう。

「感情を反さしむる歌」のはじめに「父母を見れば尊し、妻子見ればめぐし愛し」さいふ句がある。後年大伴家持の作（史生尾張少酢を教へ諭す歌に踏襲された言葉であるが、「妻子見ればめぐし愛し」こ、妻共いに子に對する愛を素直に表白したこころに注意される。「父母」さいへば、すぐ「妻子」さいふのは極く普通の言葉のやうではあるが、萬葉集の中では、家持の模倣的使用の外には、憶良だけしか用ひてゐないのである。憶良のはもう一つは「筑前國志賀の白水郎の歌」の中に用ひてゐる。それから有名な「貧窮問答の歌」の中に「父母は飢ゑ寒からむ、妻子もは乞ひて泣くらむ」こか、「父母は枕の方に、妻子もは足の方に、團み居て愛ひ吟ひ」こか詠んでゐる。

このやうな片言隻語の中にも、憶良が思ひきつて、子への愛情を詠みあげて、子供黨としての眞面目をあらはしてゐるこを注意したのである。

なほ萬葉集に就いて、子の愛を示した言葉を求めてゆくこ、憶良よりは少しく古い歌聖柿本人麿の作中に、亡妻の遺兒

を世話する男の有様が詠まれてゐるのを見る。「吾妹子が形見に置ける、若き兒の乞ひ泣く毎に、取り與ふ物し無ければ、男じもの腋ばさみ持ち……」とある。然し、この作は「妻死せし後、泣血哀慟し作れる歌」ミ題詞にある如く、主題は妻にあり、子に對する愛の情に於ては、憶良の作に遠く及ばない。そして又しても、憶良が子供黨の歌人ミして第一人者であつたことを痛感するばかりである。

萬葉集には多數の女性作者があるのであるが、子の愛を詠んだ作は少い。まづ大伴坂上郎女が旅先から「宅に留まれる女子の大嬢に贈賜れる歌」ぐらゐであらう。

常世にミ 吾が行かなくに 小金門に もの悲しらに おもへりし 吾が兒の刀自をぬばたまの 夜晝さいはず おもふにし 吾が身は瘦せぬ 嘆くにし 袖さへぬれぬかくばかり もこなし戀ひば ふるさきに この月頃も ありかつましじ

## 反歌

朝髪所思みだれてかくばかり なねが戀ふれぞ夢に見えける。

この作は、「娘から進つた歌に報へて送つた歌」さいふここである。もはや相當の年齢の娘であらう。なほ坂上郎女は、この娘が結婚して、越中國の夫家持の許にあるのに贈つた作には「海神の神の命の、御櫛笥に貯ひ置きて、いつくさい珠に勝りて、思へりし吾が子にはあれぞ……」さいふ言葉がある。娘を結婚させた母親の情が出てゐる作であるが「珠に勝りて思へりし吾が子」さいふのは、さうも「銀も金も玉も何せむに」さいふ言葉あたりにお蔭を被つてゐる言ひ方のやうに思はれる。またしても憶良のここを思はせられる。

かうして見て來るミ、女性の作ミして光つた作は、天平五年遣唐使の舶が難波を出發して行く時、「親母の子に贈れる

歌」こある一首であらう。

秋萩を 妻問ふ鹿こそ ひまり子に 子持たりさいへ 鹿兒じもの 吾がひまり子の 草枕 旅にし行けば 竹珠を 繁  
に貫き垂り齋戸に 木綿取り垂で、 齋ひつ、 吾が思ふ吾子 眞幸くありこそ

反歌

旅人のやぎりせむ野に霜降らば吾が子はぐくめ天の鶴群

「秋萩を妻問ふ鹿は、ひまり子を持つてゐるさいふが、その鹿のやうに、たつたひまりの吾が子」

さいふあたりは、如何にも素朴な口吻で興味が深い。恐らくこの母親は鹿の棲む野山にある人であらう。そのひまり子の旅立ちにあたつては「竹の珠を澤山貫いて垂らし、清淨な神酒の器に木綿を垂らして神を齋き祀つて、自分の愛する子の無事であるやうに」、ひたすら祈るのである。敬虔な心情の溢れた作である。此の素朴にして敬虔な心根は、更に反歌に於いて強烈な母性愛になつて逆るのである。「旅人の宿をさる野原に霜が降つたならば、自分の子をはぐくんでお呉れよ、天の鶴群を呼びかけたところなぞ、實に深く強き母の情に心打たれるのである。これは非常時の作であるが、この母の平常もさこそ思はれる。子供黨列傳さいふこの文にはふさはしくないかも知れないが、本當に我が子を愛する情の出てる作として、また非常時の昨今を思ひ合はせて、感慨の深いものがある。

# ビスケットとお猿さんのお話

武田 雪夫

さあ、これは、ビスケットとお猿さんのお話ですよ。

ある公園に、動物園がありました。

まあ、今日は、ほんたうによいお天気ですこし。でも、今日は、日曜日でも何でもない日ですから、動物園にも、見に来てる人があまり大ぜいありません。

まだ幼稚園にも行つてゐない。小さな坊ちゃんやお嬢さんが、お母さまたちと一緒に来てゐます。それから、髪の毛の長い畫家の小父さんが、けものや鳥の畫を描きに来てゐます。それから、さこかのお爺さんやお婆さんが、ゆつくりゆつくり歩いてゐるだけです。

ですから、動物園のお猿さんたちも、今日は、誰も、おいしいものを投げてくれませんから、

「あゝ、しまらない、しまらない。ほんたうに、しまらない。」

さう言つてゐました。

さうするに、その時、誰か、チヨコくチヨコく歩いて來ました。まあ、かはいゝ小さな坊ちゃん



それは大よろこびでした。ビスケットが、金網の中へ入らなかつたのに、ちゃんこ中へ入つたつもりです。

「オチャルチャン、タベタ、タベタ。ビスケット、オイシイ、オイシイッテ。」

さう言つて、かけ出して行きました。むかふの孔雀のゐる金網の前に立つてゐる、お母さまのまごころへ、かけて行きました。そして、また、さつきと同じやうに、

「オチャルチャン、タベタ、タベタ。ビスケット、オイシイ、オイシイッテ。」

さう言ひました。

お母さまは、孔雀の羽根が、餘りきれいなので、うっかり、そればかり見てゐて、坊ちゃんの方は少しも見てゐませんでしたから、坊ちゃんが、ほんこに上手に、お猿さんにビスケットを上げたのだと思ひました。それでお母さんも、にこ／＼して、

「まあ、さう、えらかつたわね。さう、おいしい／＼つて食べたの。よかつたこご。」

さう言ひました。そして、今度は坊ちゃんのお手々をひいて、あのくちばしの大きなペリカンの方へ行つてしまひました。

さあ、こちらの金網の中のお猿さんは、小さな坊ちゃんが、せつかくおいしいビスケットを投げてくれたのに、コチン金網にぶつかつて、外へ落ちてしまひましたから、食べるこごが出来ません。

さうかして、取れないでせうか。お猿さんは、手を出して拾はうと思ひました。金網の一ばん下の金の棒かねぼう

の下<sup>した</sup>に、少しすいてゐるところがありました。お猿さんは、そこから片方の手を出して見ました。でも、まだくゞいてもくゞきません。

「ウン、ウン。」と、うなつて、力一ぱい手をのばして見ましたが、だめです。もう一本お手々をつながなくては、きつかないでせう。

そんなに遠くに落ちてゐるのでは、どうしても取れませんね。お猿さんは、手を引つこめて、キョロ／＼と、ビスケツトを見てゐました。そして、お猿さんは考へました。

「あゝ、さうだ、さうだ。誰か來たら、拾つて下さいなつて、たのむことにしませう。」

さう思つて、お猿さんは、誰かそこを通りかゝるのを待つてゐました。すると、そこを、どこかのお婆さんが、ゆつくり／＼歩いて通りかゝりました。お猿さんは、いそいで、

「お婆さん、お婆さん、そのお菓子を拾つて下さいな。」

さう言つたつもりでした。けれども、お猿さんの言ふことなど、お婆さんにはわかりません。たゞ、こんな風に聞えました。

「キイ、キイ、キャツ、キャツ、キイ、キャツ、キャツ。」

お婆さんは、びつくりしました。お猿さんの前を通るに、いきなり、お猿がないたのですもの、ほん／＼にびつくりして、

「お、いやな、エテだご。まあ、氣味の悪い聲を出したりして。」

さう言つて、いそいで向ふへ行つてしまひました。エテといふのは、やはりお猿といふことです。

お猿さんは、そんなごは少しもわかりませんから、

「あれ、何て變なお婆さんなのでせう。」

さう思ひました。

するさ、こんきは、そこへスイ〜と、一ぴきのさんぼさんが飛んで來ました。その赤い小さなさんぼさんは、ずる分遠くから飛んで來たので、くたびれてゐたのでせう。そこに、ビスケツトが一つ落ちてゐるのを見つけるさ。

「あ、これはよいお腰かけだご。さう。一休ませう。」

さう言つて、ビスケツトの上にごまつて休みました。

それを見るさ、お猿さんは大よろこびで、

「あ、さんぼさん、さんぼさん。おねがひだから、その、ビスケツトを、もう少しこちらへ持つて來て下

さいな。」

さう言ひました。するさ、さんぼさんは、びつくりして、大きなお目々をグル〜させながら、

「まあ、私には、こんな大きなものは、さても持てませんわ。まあ、ごらん下さい。わたしの足は、こ



んなに細いんですもの。でも、よいこがおりますよ。ちよつこお待ちなさいな。」

さう言つて、スイ〜むかふへ飛んで行きましたが、すぐに歸つて来て、

「お犬さんを、たのんで來ましたよ。」

さう言ひました。ほんごに、すぐ後から、一びきのお犬さんが來ました。そこで、さんぼさんが言ひました。

「あのね、お犬さん、このビスクケットを、お猿さんが、もつご、そばへよこして下さいつて。おねがひしますわ。」

さうするご、お犬さんは、すぐにそのビスクケットをお猿さんのそばへ、よせて上げようと思ひました。でもお犬さんは、私たちのやうにお手々で、物を持つごが出来ません。ですから、ひよいごお口に唾へて、お猿さんの方へ寄せて上げようごしました。

するごお猿さんは、白い齒を、むき出して、キ〜ごないて怒りました。きつご、お犬さんが、そのビスクケットを食べてしまふのだご、思ひちがひをしたのです。

お犬さんは、おぎろいたでせうね。え〜、え〜、びつくりしましたごも。ほんたうに驚いて、ビスクケットを捨てるご、むかふへ走つて行つてしまひました。

それを、ごこかの小父さんが、はじめから見えてゐました。小父さんは、落ちてゐたビスクケットを、ステッ

キで、お猿さんの方へよせてやりました。

それから、お犬さんが、何だか大へんかはいさうになりましたから、手に持つてゐた袋の中から、おせんべいを一枚出して、お犬さんの方へ投げてやりました。お犬さんは、よろこびましたよ。小父さんの投げて呉れたおせんべいを、

「ごうも、ありがたう、ボリ、ボリ、ボリ。あゝ、おいしい、おいしい、ボリ、ボリ、ボリ。」

さう言ひながら食べてゐました。

さんぼは、お菓子は食べませんから、お池の方へ、スイ〜〜飛んで行きました。

あれ、お猿さんが、バスケットをおいしさうに、モグ〜〜食べてゐます。きつこ、金網の下から手を出して、上手に拾つたのです。

それでは、これで、このバスケットもお猿さんのお話は、おしまひです。

## 選外佳作の二

# 蟲の洋服屋さん

菅野　み　子

青い草の一杯生えた廣いく野原に、てんこむしをかたつむりさ、てふくきたまむしの洋服屋が住んでゐました。てんこむしさんは、赤くて黒い玉の練瓦をしいた丸いお家で、赤地に黒の玉模様のある可愛い、可愛い、お洋服を縫つてゐました。かたつむりさんのお家は、そのお隣りで、うす巻き模様のある四角いお家でした、大勢のかたつむりさん達は、みんなに強い彈が來てもはねつかへず事の出来る防弾チョッキをつくつてゐました。そのお隣りの玉蟲さんのお家は、白い涼しさうなテントで、澤山の玉蟲さん達は青いピカ／＼光るサテンのお洋服を縫つてゐました。又そのお隣りのバラの花の形をしたてふくさん達のお家では、それを着るこ

空を飛ぶ事の出来る黄色な不思議なお洋服を縫つてみました。

或日の事、いつものやうに、皆で歌をうたひながら元氣よくお洋服を縫つてゐるミ、ミコから来たのか汚いお洋服を着た貧乏さうな、お姉さんらしい女の子ミ弟らしい男の子が遊びに来てこんなお話をしてゐました。

「あたし、お隣りの花ちゃんのやうな綺麗なお洋服がほしいわ、今度の八幡様のお祭りに皆ないゝおべべを着るんですけど、あたしも綺麗なお洋服が欲しいわ」

「あゝ僕も兵隊さんのお洋服が欲しいな、兵隊さんのお洋服着てゐないミ、兵隊ごつこに入れてくれないんだもの」

「本當にさうねえ」

「誰かサンタクロースのおぢいさんのやうにくれるミいゝんだだけれぎも」

蟲のお洋服屋さん達は、これを聞いて大變可哀さうに思ひました。それで皆は二人にお洋服を作つてやらうと相談しました。

「もし〜嬢ちゃんミ坊ちゃん、わたし達は洋服屋です、お洋服が欲しいなら、私達がつくつて差し上げませう。綺麗な好みのお洋服をつくつて差し上げませう」ミ申しましたので二人はびつくりしてしまいました。こんな蟲に本當にお洋服がつくれるかしらミ思つて。それでちよつミ後をふり向くミ、可愛らしいてんミむしさんのお家でも、かたつむりさんのお家でも、てふ〜さんのお家でも、玉蟲さんのお家でも、皆がそれは〜綺麗なお洋服を縫つてゐました、一目それを見た二人はマァ、ミ言つて大聲をあげてしまいました。

「まあ何て綺麗なお洋服でせう」

「まあ何て立派な防弾チヨッキだらう」

「あんな立派なお洋服を着たらまるで王女さまの様だわ」

「あれを着たら本當の兵隊さん見たいだらうな」

ミ大喜びでした。

そこでてんミむしさんやかたつむりさん達は、お姉さんのヨシ子さんミ弟さんの二郎ちゃん

の寸法を計つて縫ひ始めましたが、その縫ひ方の早い事言つたら面白い程で見てゐる間にごんさん縫えてしまひました。ヨシ子さんには、てんこ蟲さんがルビーのやうに赤い地に黒い玉の模様の浮んだ一パイ飾りのある美しい美しいお洋服を、やはり赤い絹の靴、二郎さんには、かたつむりさんが茶色な立派な防弾チヨッキをつくつてくれました。それからもう一つ、てふてふさんは二人に黄色なベールのやうに美しく、それを着るご空を飛ぶ事の出来るお洋服をつくつてくれました。

二人は大喜びでそれを着るごまるで見違へる程立派になりました。ヨシさんはまるで王女様のやうですし、二郎さんは戦争に行く兵隊さんの様でした。二人は皆に有難たうを何度も言つて、てふてふさんにいただいたお洋服をその上に着て、空を飛んでお家へ歸りました。

さあお家へ歸るごお父さんもお母さんも、お隣の叔父さんも叔母さんも又その隣の叔父さんも叔母さんも大變驚き、二人は村中町の評判になりました。あんまり見事なので、町の人達は我もくご野原の蟲の洋服屋さんのごころへあつらへに行きました。さうして八幡様の

お祭りの時は皆着飾つてまるで花が咲いたやうでした。

さうしてだんく此の事がこの國の王様のお耳にきこえました。そこで王様は、澤山の兵隊さんがお隣りの國に戦争をする時に必要な防弾チョッキをかたつむりさんのところへ、又飛行機のかはりに空を飛ぶ着物をてふくさんのところへ澤山御注文になりました。

それから王様の式の時に着る立派な青いマントも、お后様のイブニングを玉蟲さんのところへ、可愛らしい王女様のよそ行きのお洋服をてんこ蟲さんのところへ御注文になりました。

それで野原のてんこむしさんも蝶々さんもかたつむりさんも、玉蟲さんも皆大變繁昌してその後も楽しく仲よく暮しました。

## 選外佳作の三

# かつぼと蛙

鯖江幼稚園 山本ユキ

或るお家に愛子さん云ふお嬢さんがありました。此のお嬢さんは、大へん、足のお行儀がわるくて、いつもくお母さんに

「お下駄は揃へて脱ぎなさい」

こいはれて居りますが、忘れては、お下駄をバラくにして、お家へ這入つてしまふのでした。或る日、お父様がお土産に、愛子ちゃんに、かあいゝ美しい、赤いかつぼ下駄を買つてきて下さいました。かつぼの中には、鈴がついて居り、歩く度に、チャリン／＼と、音がしますので、嬉しくて／＼たまりませんでした。もらつた日などは、枕もこへ揃へてねんねしました。



毎日くかつぼを大切に履いて遊んでゐます内に、愛子ちゃんは又忘れて、アチラへ片方、コチラへ片方脱いで、お家の中へ、は入つてしまひました。

お隣のお家には、ボチミ云ふ犬がゐました。いつも愛子ちゃんのお家へ遊びにきました。今日も愛子ちゃんのお家へ遊びにボチが行きますよ、かあいゝかつぼが一つゐます。餘りかあいらしいかつたので、ボチはかつぼを叩へて、お庭へ遊びに出ました。さうしてかつぼミ廣い廣いお庭の草の中で、チャレタリして遊んで居りましたが、ボチはお腹がへつたので、カツボに「左様なら」ミ云つて、お家へかへつてしまひました。

かつぼはボチミ遊んでゐたので面白かつたが、獨りになるミ急に淋しくなりメソメソ泣き出しました。そこへ、ピョン／＼ミ、蛙さんが喜んできました。蛙は

「かつぼさんく、そんなに赤い良い着物を着て、何でないて、ゐなさる」  
ミきゝました。かつぼは涙をふいて

「私ねお嬢さんの玄関にゐましたら、お隣りのボチさんが来て、此の廣い、お庭へ連れてきて下さつたの、そしてボチさんミ、面白く、遊んでゐましたが、ボチさんは、私を置いてお家へ歸

つてしまったの、私は獨りで、かへられないので悲しい」

「言ひました。蛙は之をきいて、かはいさうだ、何にかして助けて上げたいが、私はかつぼさんを、連れてゆく事は出きないし、兩手をくんで、お目々をつむつて考へました。蛙はハタミ手を打つた」そうだ」と、ピョン／＼と鳥さんのお家へ行きました。

「鳥さん／＼何卒、彼のかつぼさんの側の木へきて、「カア」をないて下さい」  
またのみました。鳥は

「ハイ今すぐ行きます」

と云ひました。今度は、ピョン／＼と丸い、お窓のある、鳩さんの、お家へ行きました。

「鳩さん／＼何卒、かつぼさんの側の木に止つて鳥さんの次ぎに、「ボウ」を鳴いて下さい」  
と、頼みました。鳩さんは、「ハイ今すぐ行きます」と云ひました。今度、鶏さんのお家へ行きました。

「鶏のお母さん／＼、何卒かつぼさんのよこで、鳥さん、鳩さんの次ぎに、コ、と啼いて下さい」

ご頼みました。ハイ／＼今すぐ行きますこいひました。

蛙さんが、カツボさんの處へきた時に、鳥さんも鳩さんも鶏さんもきて、まつてゐました。

蛙さんはお行儀良く坐つて、おねがひしますこお手々をついてたのみますこ。

「カァツ」「ボウ」「コ、」、「カァツ」「ボウ」「コ、」

ご相替りになきました。

愛子ちゃんは少ししたつて外へ出やうこしますこ、カツボが片方ありません、吃驚して探しましたがもうありません。愛子ちゃんは、さう／＼大事なかつぼが、なくなつたので泣き出しました。する／＼ここからか、

「カァツ」「ボウ」「コ、」／＼云ふ聲がしますので、背を伸して、其の方を見ますこ、草の中に、赤い／＼カツボが泣いてゐます。愛子ちゃんは跣足でかつぼを連れに行きました。かつぼの體が汚れていましたので愛子ちゃんはきれいに拭つてやりました。蛙さんは、鳥さん、鶏さん、鳩さんにお禮をいつて、うれしさうにお家へかへりました。

# 幼稚園を覗く (三)

私の園醫をしてゐます幼稚園の保姆諸君は、毎月の身體測定の結果を前月と比較して例へば少しでも體重の減少したもの、元氣の悪くなつたもの、顔色の變になつたもの、お仕事の出来ばえの悪くなつたもの等の「生活觀察」を始められております。

お母さんについて、その一ヶ月に於ての生活の變化の有無、病氣の有無、母親の氣付た點等を委しく調べて、園醫と再び相談して適切な「生活指導」を與へておられます。時には精神衛生方面の問題が起りますと又それは其方面の先生に指導をうけてお母さんを指導しておられます。

健康への正當な満足は、こどもが小さければ小さい程、より切實な、より適確な指導によつて與へられねばならぬことだと思ひます。

幼稚園では、唯畫を描かせばよい、お話をうまく、面白くさせればよい、遊戯を教へればよい、手技をつくらせておけばよい、行儀作法をきちんさせればそれでよいばかり考へてゐる保姆諸君は、もう日本の國には一人もゐないだらうと思ひます。

健康生活——精神も、身體も健全であるこみが千古不滅の眞理であること云ふことを忘れてはなりません。

幼稚園程、家庭と最も近いものはないと思ひます、幼稚園は、家庭教育の代行所ではありません、幼稚園は家庭教育の指導場所であり又種まきの場所であります。保姆は全然母親の代權者ではありません。こどもの爲のよき生活への指導者であると同時に母親へのよき教師でなければなりません。

將來何年か、何十年か教育さるべき長い年月に於て、幼稚園時代の教養は、最重要なる基礎であり、個人的の生活から、團體的、社會的な生活への歩み初めであります。

「日本教育學」の著者文部省督學官近藤壽治氏は、次の様に語つてゐられるではありませんか。

「教育は單なる文化の傳達ではない、單なる自我の成長でもない、全體的共同體に歸還し、我に對する汝を媒介としてのみ我に顯はるゝ全體精神であらねばならぬ：」  
健康生活——それは單なる我自身の個人的なものではない、社會的な全體精神に於てあらはされねばならぬ個人の健康であります。言ひ換へれば、社會的生活に於ての個人の健康の重要性であります。ですから、健康といふことは社會的生活に於て守らねばならぬ道德として存在が重要であります。

かうした意味から、社會的生活の初めである幼稚園生活から、健康生活の訓練が最必要であると思はれます。

○

倉橋先生。

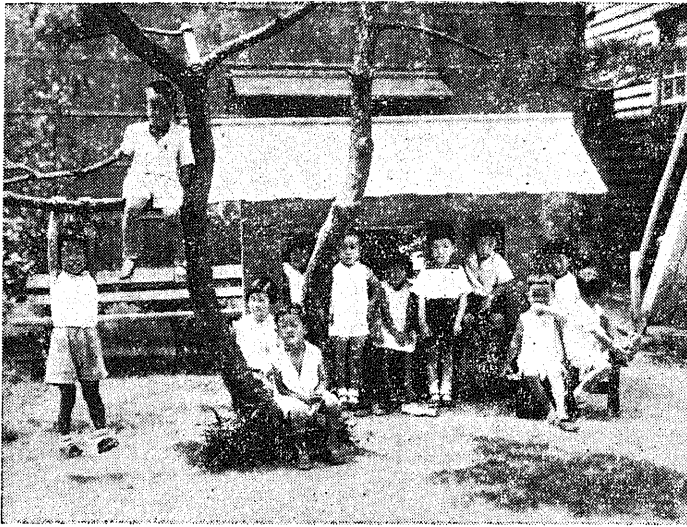
先生は本誌の九月號に「お饅頭を見るこ直ぐに手を出す私の様な天才であります」こ講義されておられますが、大變甘黨の天才でおありの様ですが、誠に結構であると思ひます、私はお饅頭をほしければ、すぐ手を出す天才は、お饅頭を喰べるのにいくら位迄ならたべて、自分のお腹をそこなはないかといふことをよく知つてゐる天才でくれると思ひます、又さうあつて欲しいと思ひます。或は又お饅頭をいくらたべても、お腹を害はない天才であつて欲しいと思ひます。

昔の衛生論から云へば「そんなお饅頭なんか、たべてはいけません」こ來るでせう、然し、私は「自分のお腹を害はない心がまへを以て、お饅頭をたべる天才であつて欲しいと思ひます。更に進んで、「お饅頭を、いくら喰べても、お腹を害はない」天才でありたいものです。

さて、倉橋先生は、いづれの天才でありませうか、一つお伺ひしたいです。幼稚園教育の天才であられるといふ事は昔より存じてゐましたが、其れと同時に、お饅頭たべの天才であるこは、私は始めて承知いたしました。

## 閑話休題

こも角、「自らの健康は自ら守る人間」が望ましいこもで



あり、然も「それは社會に生くるものゝ道徳であるこの自覺」に向かつての心がまへが培はれる様に、積極的に、前進的に、重積的に健康教育が施こされて行きたいものであると思ひます。

倉橋先生は更に講義をすゝめられて「道徳教育」の處で、「道徳教育——即ち生活を道徳的態度に養つて行かうとする……」

こ述べておられる、そのこも、同じ様に健康教育も、健康に對する生活態度を養つて行かう、こいふこもが最重要なこも——心がまへであります。

先づ保姆諸君が、かうした健康への心がまへ、健康教育の目標に對する認識、健康教育への重要性、その意義などを判然りと知つていたゞきたいのであります。

○ 倉橋先生

私の幼稚園(詳しく申しますと、私が園醫をしてゐます幼稚園)のこもです、何だか、私の幼稚園を言ひたい心持が致しますので、これから、略して、私の幼稚園を申します、然し、

決して私が幼稚園を經營してゐるのでもありません——それほぎのお金持でもありません、或は私が園長さんでもありません——それほぎ私は、教育者でも、人格者でもありません。然し何だか、こぎもが可愛くつて、ほんの僅かの、つらなりにある、幼稚園のお醫者さん、こぎもが呼んで下さるうれしさで、私の幼稚園云はせていたゞきたいです、その私の幼稚園で、夏休み前から、小さい小屋を作りました、保母さん、こぎも、小使さん、みんなが大工になつて、板を運んだり、屋根をつくつたり、釘をうつたり、金鏈をたゞいたり、いろ／＼の仕事をして、やつこ一つの立派な木造建築が出来上りました。

窓が兩側に四つ位出入口が大きいのが、二つあつて、中には、こぎもの椅子が六——八脚ほぎは入るこぎの出来る、それはそれは、立派な建築が出来上りました。やがて、ペンキがぬられて、今度は、美しい空色の洋館になりました。

之は要するに、從來の幼稚園の體育(體育といふ言葉が丁度、當てはまるか、さうかはさておき)に對する考へ方が、

之を考案された保母諸君の頭の中に大分變つて來て下さつたこぎをうれしく思ひました。勿論、此建築の大工さん遊びは唯單なる體育ではない、其外に數多の他の重要な教育上の要素を含んでおるこぎは申すまでもありません。然しその中に健康への指示を、心持を考へていただいたこぎが、私にさつては何よりもうれしいこぎでありました。

こぎもの悦びましたこぎ、打ち込む釘は、曲つても、ゆがんでは入り込んでも、時には金鏈がすべつて、指先を打つても、ペンキが手についても、それはそれは、よろこんで力一杯に働きました、汗を出して、汗をふいて、働きました。

未だ完成もしない内から、ペンキをぬりませうといふ保母諸君の聲をよそにして、さう／＼出来るか、出来る上らない内に、椅子を持込んで、それは、それはいろ／＼な、こぎもの生活に利用されました。それ故さう／＼、ペンキぬりは一、二ヶ月後れてやつこ夏休みがすんで、九月になつてから行はれたこぎでした。

之はほんの僅かな出来事です、然し、私の眼から見れば、

# 雜 錄

お部屋に終日、閉込もつて、手技だ、遊戯だ、お話だ、唱歌だ、觀察だ、い一つてゐるより、青空の下で、汗を流して、力を入れて大きな筋肉を働かせて、働くこゝみにきれほぎか、又新しい價値——健康への身體的精神的の訓練があるではないかと思はれました。

倉橋先生。

こんなお仕事——労働、體育は幼稚園では悪いでせうか、如何でせうか？

## ◎全日本保育大會

全日本保育大會が、左の要項で開かれる事になつて居ります。講演、協議、研究、發表等豊富なるこの會のプログラムは僅かなこの紙面では盡し得ませんので、遺憾ながら掲載致しませんでした。御承知御希望の方は、大阪市北區堂島、大阪毎日新聞社會事業團宛でお申込になれば、送付していただきます。

期日 昭和十二年十一月十三日(土) 十四日(日) 十五日(月) 三日間

第一會場 大阪市軍人會館  
第二會場 大阪市國民會館  
會場 第三會場 大阪毎日新聞社講堂  
第四會場 大阪市中央公會堂

主催 全日本保育聯盟 大阪毎日新聞社會事業團

## ◎第三回四國四縣保育大會

第三回四國四縣保育大會が、去る九月二十五日、二十六の兩日愛媛縣女子師範學校、並に松山市廳舎に於て開かれました。參會者三百名。内容の充實した、盛んな會でありました。



## 幼児童話審査員會の夜

フレーベル館創業三拾周年記念保育研究資金による幼児童話の募集の結果は、本誌先月號に發表され、今後も引きつゞきその作品發表がなされる事になつて居ります。實は、この記事も、順序としては九月號の發表と同時に致されるべきでございましたが、この仕事の内幕を知つて居らるゝ方はごなにも御諒解下さる事と思ひますが、九月號に發表される爲には八月の末までに原稿が整つて居らねばならず、その爲には審査委員會は、おそくも八月の末に催されて居らなければなりません。今年の八月は御承知の通りの炎暑ではありましたが、又審査員の諸先生方は皆何れも御多忙で、東京にお出でにならない方もお在りでしたし、そんな事情で審査員の諸先生方に親しく、御審査の御批評を伺ふ會は、おくれればせながら、此の十月の五日に開かれたわけでした。

記者もその末席に侍らせていただき、諸先生方の御熱心

なお言葉をお伺ふ事が出来ました。一般讀者にも非常に興味あり教へられる事の多いものでございますが、この度の計畫に御賛同、應募せられた方には、又ぎんなにか強く深くひやく事でせう。その會のあらましをスケッチして御知らせ致すここに致しました。文責は勿論記者にございます。

倉橋先生 一等當選の「十五夜のお山」も、二等の「時計の子供」も云ふのは審査員諸先生によつて第一位に置かれた方があり、又第二位に置かれた方がありまして、全員一致でもありませんでしたが、併しみんなのを綜合して見て一等になり、二等になりましたので、集つたものゝ中ではいゝ作品だつたのだと思ひます。それに就いて小川先生如何でござんせう。一つ御批評を御伺ひ致し度いのですが。

小川先生

「十五夜のお山」ミ云ふのはいゝ作品でした。月の無い晩の光景なきがよく書けてゐましたし、又人情味もあり、やさしみもありましたし。併しこれについて難を言へば

1、ありきたりの比喩感情で一貫して居る。

2、明るい、新しいお伽噺を自分で作らうとする意氣に缺けて居る。

ミ云ふ、二つの事が言へる様に思ひました。狸や兎の概念はもう古いですな！ それからスキッチョが怪我をしたりするところは暗くて非科學的なところもあつて、一寸いやですね。

童話はもつと新しい進歩的なものが出来なければいけないと思ふんです。

新しい童話は、ミつつきが悪いとか、親しみが無いとか云ふ事も言はれるが、子供が自分で讀む爲の童話ならさういふ事もありませう。併し、小さい子供に聞かせる童話ですから内容はさう問題ではなく、聞く子供に語る人との關係だと思ひますよ。ですから新しく一寸ミつつきが悪いと思ふ様なものでも、日頃親しんでゐる保姆

さんやお母さん等から聞くいゝものです。

もつと新しいお伽噺の世界を開拓するものが出来欲しいと思ひました。

そこへいくと「時計の子供」の方は、新鮮味があつていゝと思ひました。お母さんや保姆さん等から聞くミ子供の頭にぴつたり来ると思ひます。

倉橋先生

成る程さうですね。私なんかはそこまでこまかく考へず、お月様が再び出て来たあたりの野原の明るい感じを、たゞ印象的に明るく感じて、面白い作品だと思つたんです。

岸邊先生

私はあの「十五夜のお山」を讀んだ時、あの天の岩戸の前でお神樂をやつて、天照大神に再びこの世にお出になつていたゞいてこの世を明るくしていたゞいたあのお話を直ぐ思ひ出し、上手に取り扱つてあると思ひましたよ。そして、この人はなかくおもしろい頭の人だと思ひました。文章もよく書けてゐましたし、構造の方も初めミ、

説明ミ山ミ結びミ云ふ様に四段から出来て居り、それぞ  
れの長さも程よく、そしてよく整つて書いてゐると思ひ  
ました。

「時計の子供」の方は、面白い考へ方ですが、夢で結ん  
であるのが一寸氣になりますね。私なんか、自分がおは  
なしを作る時に、いよく困つてしまふミ遂、夢だつた  
ミして逃げ易いので、その手を使ふのが嫌ひなのです。  
結びはなるべく夢にしたいミ思ひますね。

「積木の御殿」これも夢になつてゐる。それに此の作に  
は言葉が少々ぞんざいなところがあつて困ります。品の  
わるい言葉はいけません。

川先生

「めだか」は朗らかな教訓的な作品ですね

島先生

「積木の御殿」ミ云ふのは、極くいゝミ思ひますよ。宗  
教的な価値のある美しい作品だミ思ひましたね。あゝい  
ふ話を聞かされてゐるミ、識らずいゝ感情が養はれ  
るミ思ひます。

岸邊先生

さうか「鉛の兵隊」に似てゐる感じがしました。おしま  
ひにおもちやミお菓子を買つて来て下さつた、之れも少  
少話の逃げですね。

田島先生

全體ミして、さうも、もつミ創作的なものが出て來そ  
うなものだミ感じましたがね。それから東京の保姆諸君  
が少ししか出して居ない。一寸がつかりました。

小川先生

さうですね、全體を通じてもう少し高度のものが出て  
いゝミ思ひますね。殊に、さうも子供の世界には入り切  
つて居ない。又もつミ自由奔放に書いて欲しい。感激の  
ある高い感じのあるものが欲しい。

倉橋先生

さうですね、みんな、作られてるミ云ふ感じが勝ちま  
すね、もう少し、吃驚<sup>びっく</sup>する程、フーミするものがほしか  
つた。作者のほんたうの溢れでないやうな氣がする。

岸邊先生

しかし又ね。皆さんはいろいろ慾張られるけれど、なか／＼さうは行かない。今回ののはこれで皆相當よく出来てゐますよ。

田島先生

一人で三篇も出して居られるのを見て、その熱心に感心しましたね。

岸邊先生

二百近くも出た事が何より嬉しい。出来のよしあしは今回はこれ位で上出来と言はなければならぬでせう。

これが二十か三十しか集まらなかつたら心細いし、質ももつゝ悪かつたかも知れない。

文展の第一回の作品も、これ位ではなかつたのでせうか。高い所を示していたゞゞ共に、今度はよく、こゝまで来たゞ賞めて上げたい。

倉橋先生

審査員の皆さんもあの炎暑の折柄にもかゝはらずよく見て下さつた。今日は御出張で御缺席ですが、あの多忙な久留島さんの如き、「これは星でなく月にしたら」等々細

かい事まで書き添へて下さつたりした位です。

小川先生

實際選者にして迷つてしまふ事があつて、一つのもを三度も四度も讀む事がある。

倉橋先生

審査員、實行委員の方々の御努力もさる事ながら、又この主旨に賛同して應募して下さつた多數の方、その中には遺憾ながら選には入らなかつた方々をも含めて充分感謝しなげりやなりませんよ。

かうしたお話の後でフレール館高市次郎氏の心からの感謝、感激の挨拶があつて夜おそくまで次回の募集の協議がつけられたのでした。

手技募集に就いて

フレール館創業三十週年記念保育研究資金による第二回の懸賞募集——手技募集——をいたして居ります。前回にもまして多數の皆様が應募なさいます様、おすすめいたします。委しい募集規定は本誌廣告に明記してございます。

記者

# 幼兒教育の文化性 三

— 講習筆記 —

倉橋惣三

## 目次

第一 序論

第二 道徳教育

第三 宗教教育

第四 藝術教育

## 第三 宗教教育

道徳教育の事は、教育に於て最も大事な基礎的な問題でありまして、昨日考へました様な事以外に、色々考ふべき事が

宗燦の燦育との關聯に據きまつたは、聖論的に考へて見ますると、非常に深い關聯である、密なる關聯であるを辯じてお  
 限つて考へるのじやありません。

財本の考へたがむひやうして行く聯合の實際、世に云ふ意味で、姓國の實際ではないといふに思はれたいと云ふ意味で、いつか國  
 なるべきだ。宗燦に云ふ所の燦育に云ふ所のじや、さう云ふ關聯に成るものじやあらうと云ふ財本の考へた……總しての  
 宗燦の燦育に云ふ事々のほんの關聯自体で、姓國に於けるその問題で、いつか限つて國限つてハッキリ考へて置く必要があると思ひま  
 せぬ。さうは姓國に於ける燦育に宗燦の關聯に成ります。この問題は、ハッキリ考へて置く必要があると思ひます。

○

さういふの問題を考へるに據きまつた、先づ一應管轄の境を論議承映の事々、念の意見直つて置くがむひやうなるべき事  
 まつたは、夫類の人際最高の文外に成る宗燦に云ふ問題を故然考の中になしきで離れて置なむべきであらう。

この際姓國の中にお目印を置くてお置ない籍に成ります。折して一番際を以て中上がまじり難が具合で、燦育自良の  
 じやありませんが、まつたや宗燦に云ふ難が文外に非常な制限が一致して行を論へて置ぬます高尙なもの、さう云ふ風な  
 り、善知なる卦辭に云ふ文の莫然なる事じやありません、さうは善識に云ふ式にさうも難がなすて置ぬが風なもので  
 番際を以て終束して難が具合で、姓國に於ける宗旨目的が、禮節辭軌の式面に於きまつたは、勤全なる心良の發露  
 さいふ、その次に何を辨出つても難がなすて置ぬます、宗燦燦育に云ふ問題を考へて見よと思ひます。さうは一  
 つまつた、そのさいふを、平日の言語を一觀して置くがむひやうと思ふのじやありません。

さうは、さういふさいふ、折して一面から見ますと、善識燦育に成るさいふ、人間燦育の全體に成つて置る事じやありません、發  
 露のさいふに成ります。折して一面から見ますと、善識燦育に成るさいふ、人間燦育の全體に成つて置る事じやありません、發

ます。云ふのは、教育と人生とは言ふ迄もなく切離せない關係を持つて居るものである。その人生と宗教とが、又最も密なる關係を持つて居るものであるとしますれば、自然、教育と宗教とが決して別個な反對的な問題と云ふ様な譯のものではないのであります。従て他の國に於きましては、宗教と教育と云ふものが非常にしつくりと結びついて居る場合も尠くないのであります。殊に教育と云ふものが段々盛になつて來ましたそのもの歴史を遡つて見ますれば、宗教と教育との關係は事實の上に於きまして非常に密なのであります。所がそれは、宗教と云ふものとの教育と云ふものとの關係でありまして、さうも世の中の事は、さう云ふ様な根本の理論と言ひますか、本質通りには運び難いのであります。云ふのは、若しもその人生に於ける宗教と云ふものが誰れにも同じ一つのものであるならば、それで簡單なのですが、宗教と云ふものゝ本質がさうであるかは別としまして、この世の中に存在して居る宗教事實と云ふものは、社會的に存在して居る宗教事實と云ふものは、御承知の通り極めて區々であります。種々であります。甚しきは、片つ方が片つ方を宗教でないこと攻撃したり、否定したりする程種々であります。すべて世の中の事は一すじには行きませぬものでありますから、驚きもさせぬが、殊に宗教と云ふものが、その人にさりましたは所謂本當に命がけのものでありますので、そこで、色々あると云ふ丈のあつさりした話でなく、それが非常に激しいぶつかり合ひをして居るのであります。ぶつかり合ひと云ふ事更に宗教の實際に於て申しますならば、自らその宗派へ、何も他の意味ぢやありませんが、本當のものをみんなに與へ度い爲に、その宗派へみんなを連れて來よう云ふのは當然の事であると思ひます。自分が或宗派を信じて居り乍ら、他人には他の宗派を信じなさい、云ふのは、あり得可からざる事であります。自分はコーヒーを飲みます。あなたは紅茶をお飲みなさい——それは勝手ではありますが、宗教教育はそんなにあつさりした譯に行かぬ本質があります。それだけならまだいゝのであります。それがもう一つ實際に於ては、當然相手を斥ける云ふ傾向も起つて來ます。斥ける爲に斥け

る云ふ、あの世間にありますやり方は、下等下劣なる態度でありますけれども、斥ける云ふ言葉がおかしいが、詰り自分の方が本當ならば、他の方は少しく本當でない云ふ事は當然な譯であります。斯う云ふ事は宗教そのものとは別で、人間が社會で宗教云ふものを持つて居ります時に起つて來る實情でありますので、こゝの所で、宗教と教育と云ふものは遺憾乍ら一緒になれなくなつて來るのであります。教育と云ふものは、これは世の中に本當の事は一つしかない云ふ考で行く性質のものであります。又その一つの事が、人間全體に共通に普及さる可きである云ふ事をもこゝしてやつて居るものであります。

そこで、宗教がさう云ふ事になつて居りますので、教育はその宗教とピッタリつく事が出來難い。少くも難しいのであります。殊に教育と云ふものゝ本質がさうであります上に、現代に於ける教育は盡く國家を主體として、國家をその目的として、即ち教育と言へば國家的なものであるのであります。その國家的と云ふ事は、言ふ迄もなく國家的内容の如何に拘らずみんなが統一される……と言ひますが、斯くも離れぬにならない事を以て國家的と云ふ言葉の重要な意味と致します。そこで、愈々以て宗教的にその事は尊い事でありませう。たゞ如何に尊い事であらうとも、國民が色々に分れる云ふ傾きになります事は……而もそれが流行で色々な着物の色を分ける云ふ位の事なら何でもないのでありますが、生活の本質的な立場に於てさうなつて來る事は、これは國家と云ふ立場から、相容れ難い事であります。さう云ふ結果としまして、愈々茲に、宗教と教育と云ふものはさうも一緒に行き難くなつて來るのであります。皆様にこんな知れ切つた事を申上げる必要もありませんが、若し或國家が、その國の宗教即ち絶對國教と云ふものを持つて、その國教に依て統一一致して居ります場合には今申上げた様な問題が、比較的樂になつて參りますが、そう一定することは出來ません。

斯う云ふ事を考へて來ました時に、例へば我國に於ける宗教と云ふものは、さう取扱はれて居るか、我國には、國の祭



云ふものは御座います。この點に於て國民は皆一つでありませんが、宗教を信する云ふ所謂信教云ふ事になります。云ふに、御承知の通り憲法に於て全く自由が許されて居りまして、各人が信教上自由であるのであります。この事はつまり色々な宗教に於て分派が出来て少しも差支ないのであります。日本國民の中に佛教を信する者あり、キリスト教を信する者あり、その各宗教の中でも色々又細かに分れた派を信じて居る云ふ事は、國民的統一としてはおかしな様であります。日本は、國民がそれぞれの宗教を信する位の事で、國家的統一は毀れない云ふしつかりした立場に於て、信教の自由は許されて居る譯であります。斯う云ふ場合に於きましても、我國の教育の中に、宗教云ふ問題が一緒になつて來ない方が、兩方の爲に都合が好い事であることは言ふ迄もないのであります。又、さうするのが當然の理論であるのであります。此所をよく御承知を願つて置き度い。即ち日本國家は、國民が宗教を信する事を嫌ふとか、反對するとか斥けるとか云ふ精神は何所にも發表されては居りませぬ。然し乍ら教育に於ては、日本の教育は、みんなを一つに教育して行く云ふ立場なんでありませぬ。その一つに教育しようとする立場に、各自の信仰を許す云ふ立場に、これを一緒に：：所謂ゴツチャにしましては、實際上に種々な面倒な問題が起ります。のみならず理論根本に於きまして相容れない事である云ふ事は明かであると思ふのであります。これは、それ丈の話であります。

從て、斯う云ふ事が、實際問題として現はれて參ります。即ち日本に於ける教育は、その中に宗教を、その宗派に於て取入れる事を許さないのであります。これは、私が申して居ります丈の言葉の意味でありまして、教育者その人に或る宗教が影響を與へてそれからその人が教育をする云ふ事に於て、もさより差支御座いませぬ。差支ないところぢやない、それは寧ろ貴い事さ考へるのであります。これはもさより禁するの何の云ふ話ぢやありません。更に又、或宗派へ教育して行く云ふ事は許さないを申しましたが、その先生が持つて居ります宗教の信仰が、宗教云ふ範圍に於ては、宗教

ミ云ふ本質に於ては恐らく意識するミ否ミに拘らず生徒をそこへ持つて行き度いものであらう事は、これは否む可きでないのであります。即ち、先生が御自身さへも信じてお出でになる——いゝですが、御自身さへも、信じてお出でになりませう宗教、これを以てみんなに適用して、みんなを其所へ連れて行かうミ云ふ事は、これは當然な考であると思ふのであります。然しそれは、宗教ミ云ふ範圍内に於ての、宗教ミ云ふ本質内に於ての心持でありまして、教育ミ云ふ實施實行、その上に、それをさうあからさまに出していかぬ。ミ云ふミ、コッソリやればいゝミ云ふ響が御座いますが、あからさまにカコッソリミ云ふのでなく、それがその教育の傾向を、教育ミ云ふミころで束縛して了ふ様な形になる事は許されないのであります。即ち、ひろやかなる根本の心持に於きましては、さう云ふ氣持を先生が持つて居りますから、そこから色の事が自ら出て来る。これは、當然ミ言ひませうか、自然ミ言ひませうか：：それ位教育の中へ意識的或は無意識的に盛込んで来て、人間を人間ミして、國民ミして、教育するミ云ふ様な事よりも、その宗派へ持つて行くミ云ふその努力、その計畫が主になつて實現して来るミ云ふ様な事は許されないのであります。

斯うした意味に於きまして、我國の教育は、所謂宗教ミ教育ミを分離致して居ります。その宗教ミ云ふのが、宗派ミしての宗教であります。世にある宗教であります。念の爲に又言葉使ひで注釋を加へますが、宗教ミ言つて居ります時は二つの使ひ方がありまして、宗教學ミか哲學ミか云ふ様なもので宗教ミ云ふ事を言つて居ります時は、これは非常に廣い本質的な意味に於ての宗教そのものを言ふのであります。人生の事實ミしての宗教ミ云ふのは、或宗或派、さう云ふ形を持つて居るものを言ふのであります。唯心の中に誰かが持つて居る宗教ミ云ふものは、宗教的なるもので、宗教ではないのであります。これはまあ言葉の使ひ方で、宗教ミ云ふものがあつて、宗派になるミ考へて宜しいし、又宗派の形に於てあるものこそ社會的ミしての宗教であつて、心の中だけにあるものは、宗教的なる生活態度に他ならぬミ斯う見ても宜

しいのであります。

そこでまあ兎に角我國に於きまして、宗教ニ教育とは分離致して居ります。所がです、これだけの事を……御承知の通りの事を改めてハッキリ申して置きました、その上でのお話であります。まあ用心深く申しますれば、私が此處で如何に宗教教育の問題を取り出しましたも、我國の教育を宗教と一緒にして了はう云ふ、さう云ふ根本的な事を少しも意味して居るのでない云ふ事は、ハッキリ御承知を願つて置き度いのであります。それを御承知願つた上に於きまして、御承知願ふものはぬものが決つて居るのであります。その決つて居る上に於きまして、次の問題が起つて來るのであります。

○

その、次の問題ニは何であるかと言ひます、教育ニ云ふもの、人間普遍及び國民的統一性、斯う云ふものを宗教が損つて來る危険に對しましては、今申した様な態度を、昔から日本の教育は取つて居りまして、今日も少しも方針は變りませぬが、併し人生ニ宗教ニ云ふもの、關係を熟々考へて見て、教育が本當に狙つて居りまする人生ニ云ふものを、最も深い所で問題にして行きます國民教育の實際の中へ、宗教の現實が影響して來る事は、何所迄も弊害がありますから許しませぬけれども、その極く本質的な意味に於て、教育ニ宗教教養が全く切離されて居る事がいゝんであらうか、さうか云ふ問題は、これは又別の考慮になつて來るのであります。今日誰もが、宗教ニ教育の事實上に於て分離して居ります事を、これを合致して了はうと主張して居ります者はありませぬ。ありませぬが然しさう云ふ風な意味で、宗教ニ教育を分離した爲に、日本人の人生ニ云ふものから宗教ニ云ふものが、切離されて了ふとしたら、これは果してそれでいいんだらうか。斯う云ふ問題が新たに起ります。その問題からしまして、文部省は、宗教に關する新らしき訓令を出して

居るのであります。その訓令は、さう云ふ意味かミ申しまするならば、これはあの宗教に關する教育上の訓令が出ました時に色々研究され、論議された事でありますが、皆様は特に氣をこめて御研究にならなかつたミ思ひますが、その時の色々な議論は、自ら二様の見方があつた様であります。

一つは、その訓令に於きまして、宗派的教育を……宗派的宗教教育を改めて禁じようとする爲にその訓令を出したんである、斯う云ふ解釋もありました。これはです。二つの點から、さう云ふ解釋が出るのも尤もだと思はれるのであります。一つは、その訓令なるものを讀みます云ふに、宗教心を養ふ事は極めて大切であるが、宗派に即しての教育はいかぬ云ふ事を更めて強く言つて居るのであります。宗教心の根本の教育を極めて必要であるミ説く同時に、直ぐそれミ切離せない下の句の様な具合に、然し一派一宗の教育をする事はいかぬ云ふ事を言つて居るのであります。そこでその言葉が相當に強くなります。唯いけない云ふ丈ぢやなくて、下の句に重きを置いたミすれば、其方が大變強くなつて參りますので、そこでさう云ふ訓令が新たに出示されたのだミ云ふ讀み方も出来る譯であります。

然らば、元來が宗教ミ分離して居ります我國の教育に於て、何が故に今更さう云ふ訓令を出すか、何が故に今更さう云ふ訓令が出たかに就て、今の解釋をする人は、斯う見るのであります。何も今更さう云ふ訓令を出す必要はない筈である。然し乍らさつき私が一寸申しました如く、宗教ミ教育を分離はしたが、日本人の人生ミ宗教の分離を憂ふるものが澤山出まして、その結果ミして、何ミかして教育の中へ宗教を取入れて行き度い、宗教ミ教育ミを結びつけ度い云ふ考が、近時盛になつて來たのであります。その結果、宗教ミ教育の分離その事を非難する、反對する意見さへも出て來たのであります。

そこでさう云ふ議論、意見に對しまして、改めて、それはさうであらうが、そこは一應の理解がある事であるが、然し

何ミしても宗教の一派ミ教育を結びつける事は相ならぬ。斯う云ふ事を改めて警戒すべくあの訓令が出たミ斯う解釋する人もあります。斯う云ふ事も、解釋の良し悪しミ云ふよりも、確かにさう云ふ事もあの訓令から吾々は汲取る……又氣を付ける可き問題であるに相違ないのであります。然し考へて見まするミ、まあさう云ふ様に先廻りして注意深く警戒する意味であの訓令を出すミ云ふミころもあつていゝでせう。けれども然し、宗教ミ教育ミの分離は、國の永い掟なんでありますから、何も今更それだけの爲にそんなに訓令を新たに出す必要もない様であります。して見るミ、矢つ張りあの訓令の本旨は宗教ミ教育を分離しては居るけれども、宗教心そのものミ人生ミの關係に就て、日本の教育は、反對したり否定したりして居るものでない。だから宗教の一派ミの結びつきミ云ふ、宗教の一派で教育をして行くミ云ふその狭いミ云ふ弊害、狭くなる弊害さへ注意すれば……ぢやない、それを注意した上で宗教心ミ人生ミの關係の本道を教育の心の中に入れて行く事は、これはいゝ事であるミ云ふ事を注意する爲の訓令であるミ斯う解釋して宜しいし、其方の解釋の方が本當ぢやないかと思ふのであります。即ち言ひ換へまするならば、宗教の一派ミ教育の結びつきは前から禁じて居り、今日も禁じて居りますが、それを直ぐに宗教的なる生活態度ミ人生ミの關係の遮断に迄持つて來て了ふのはいかぬぢやないか、宗教の一派に生徒を連れて行くミ云ふ事でなくして、宗教的なる人生教養ミ云ふものは全然出來ない譯のものではないぢやないか、斯う云ふ事であるミ思ふのであります。

そこでこれ等の事は皆様には一種の法令的の問題でありまして、餘り關心を持たれない事かとも思ひますが、詰りさう云ふ譯で今日は一般の識者がさう云ふ意見を立てますのみならず、兎に角そのものが、宗教心の人生價値、宗教心の教養の教育に於ける必要意義、さう云ふ風なものを認識し來つて居るのであるミ斯う申し得るかと思ふのであります。その意味で私はこの問題を取扱はうミ思ひます。假に宗教教育ミ云ふ言葉を使ひますが、これは例へばキリスト教の、或は佛教

の日曜學校に於きまして、所謂學校教育、教育法令に依てやつて居るのでないあの施設に於きまして、子供を呼んで来てその宗教を教育する、これは幾らなすつたつて別に文部省が云々すべき問題では今のところはなないのでありまして、その宗教の爲に子供を呼んで来てその教育をなさる日蓮宗教育、眞言宗教育、メソヂスト教育、キヤソリック教育、斯う云ふ風な意味のある日曜學校でやつてお出でになります宗教教育の事を此所で言ふのはありません。此所はご迄もお互國家の教育法令の下に動いて居ります教育の問題を致しまして、そこで言ふ所の宗教教育、或は宗教的教育と言ひますか——教育の中に取り入れらる可き宗教の何ものか斯う云つた様な言葉が適當かも知れない云ふ程の意味で申すのであります。

そこで、さうお話をして來ました順序上、その所謂宗教に關する訓令の極く概略を申上げて置き度いと思ふのであります。これは皆様のお讀みになつて御承知であり、又これから是非一應お讀み願ひ度いと思ひますが、その訓令をすつ順序を追つて讀む様に此所でお話をして行く事は出來ませぬけれども、その訓令の要旨云ふものは、幾つかに列擧する事が出来ると思ひます。

その第一は、——私は訓令の言葉や訓令の箇條に即しては申しませぬで、その心持を解釋して申しますが、——今申し上げました通り繰返して申しますが、人生に於ける宗教の價値を認識して居るこゝ、これが一つ。宗教は迷信である、宗教は誤りである、宗教は馬鹿な事である、不都合千萬な事である云ふ様な認識でなく、宗教云ふものゝ人生に於ける尊き、價値を認めて居るのであります。

又第二に、その必要も認めて居る言へます。但し必要を認める云ふ點になります云ふこゝ、所謂宗教家が宗教の必要を認める程に限定された意味ではありません。もう少し廣義な意味で必要を認めて居るのであります。これが第一。

第三には——これが特に大事な點だと思ひますが——子供の心の中に、宗教的なる情操が持たれて居るに云ふこと、子供の心の中に宗教的なる根本情操が持たれて居るに云ふ事を、事實の上で認識致して居ります。——まあこゝ等のところ、甚だ細かい問題でありますから、私も言葉を細かく使ひますが、事實の上で認識して居ります。その、事實の上で認識して居るに云ふのは、さう云ふ譯で態々事實の上でなんに云ふ事を私が言ふか云ふ事を注釋致しますと、児童心理學なり又宗教心理學なり云ふ様な純學問の上では、疾うに斯う云ふ事を認めて居るのであります。そこでこの訓令が、その疾うに認めて居ります學説を、その儘繰返して居る、それだけならば私の今言つた様な面倒な言葉遣ひをしなくて宜しい。所がさうぢやなくて、訓令は學問でありませぬし、心理學で宗教學をこくものではありませぬから、さう云ふ意味でなく、さう云ふ心理學的理由であらうとも、或は心理學的ぢやないけれども家庭の影響であらうとも社會の影響であらうとも：宜しいですか？さう云ふ心理學か、宗教發生心理學でこの問題を取扱ひます時は児童の、人間本性の中にさう云ふものがあるに云ふ意味で理論的に説くのであります。

所がその理論的に出て來たものも事實になりますが、假に児童の心理的本質の中に、宗教的なるものがあらうこならうと、内に宗教があれば、それを自ら受けるぢやないか。社會にお寺があり、教會があり、宗教行事があり、そこから自ら受けるぢやないか、これが事實であります。

そこで兎に角兒童は、心理學的本質に於て社會に位して居ります。この宗教の存在して居ります我等の社會の中に位して居ります結果、宗教的なるものは、事實上兒童の心の中に持たれて居るのであります。幼稚園に來る途中、お寺の前を通ります。お坊様に會ひます。教會の鐘を聞きます。出がけにお母様がお燈明を上げ、佛壇を清めていらつしやるのを見る事があります。それ等のこゝは、兒童に云ふものゝ心理的本質に宗教があるかないか云ふ事は暫く別問題として、

宗教的なるものが兒童の心の中に持たれて行く所以であります。そこで幼稚園に来て居る子供——幼稚園に申して置きますが——の中には、その心理的發達からのものありませうし、家庭なり社會からの影響のものありませうし、兎に角にも斯う云ふ事を認めて居るのであります。若しも本質の心理學的根據から言ふならば、この子供も皆さうであります。今の社會的環境の影響から申します限りは、或子供にはそれが濃厚であり、或子供には濃厚でない子供もありませう。牧師様のお子さん、お寺様のお子さんには濃厚にありませうし、或は宗教反對兩親でも云ふ様な親の子には、さう云ふものが極めて少いかも知れませぬ。ですからそこは何も理論でさうの斯うの云ふのぢやないのですが、事實上、幼稚園の子供の中に宗教的なるものを心の中に持つて居る者が澤山ある云ふ事を、事實上是認するのであります。これが一つ。

○  
その次に、その、事實上持つて居ります宗教的なるものを子供が持つて居るから云つて、一々それを取上げなくてもいゝかも知れませぬ。中には、幼兒が大事に持つて來たメンコを取上げて、歸る時に渡してやる事もあるかも知れませぬ。その宗教的なるものを持つて居る、それは、メンコを持つて居る云ふ話ではなく、その前にあります宗教的生活に關する是認を結びつきまして、それを幼稚園では寧ろすべきでなからうか云ふ意味があつた訓令の中に讀まれると思ふのであります。

こゝで問題が一つ切れまして、今、訓令を説明して居るのですが、又一寸別な事が、訓辭の中に讀まれます。今のは理論的に、子供の生活に於て宗教的なるものを是認したのであります。次には、子供に云ふ事を暫く離れまして、この人生社會の發展、この歴史、そこに宗教的なる偉大なる事實がある云ふ事を是認するのであります。

詰り、今迄みんなに偉い宗教家が居たか云ふ事を是認するのであります。みんなに多くの人々が宗教的的信念に於て偉



大なる事をなしたかき云ふ事を是認するのであります。歴史に現れた宗教の偉大さを是認するを申して宜しい。親鸞上人、法然上人、日蓮上人其他日本の歴史に於きましても、時に政治家、軍人等の偉大さに較べて、歴史の表面に上つて來ました傾きもある風であつた。その宗教的精神を云ふものゝ存在を認めます。或は種々の世の中に起りました事件の中で、それが、もごが何であつたらうかき云ふ時に、宗教の影響に依て起つた云ふ事をハッキリ認めます。これが訓令の中にある様であります。さうハッキリ書いてはありませぬが、それを基にしての種々な事が説かれてある。斯う云ふ事を認めまして、それを基にして、所謂宗派の教育にあらざる宗教的教養の問題に發展さして行かうとして居るのが、あの訓令の精神であります。

○

そこで私は斯う云ふ事を申上げて、この一をきを切らうと思ひますが、この私の意味での宗教教育を考へて行きます根據としては、……基本としては、三つの事がお互に持たれて居なければならぬのであります。それは、自分が宗教を信するに否に拘らず——一寸言葉を叮嚀に使ひませう。——信するに否に拘らず云ふのは、結論的響きを持ちますが、人生の事をさう早く結論も出來ませぬから、今、信じて居るに否に拘らずと言つた方がいゝ。信するに否に拘らず云ふのは、絶對的に斷定を下して了ふ様な響きがありまして、人間が使ふ言葉としては少し生意氣であります。少し道斷であります。さう云ふ事を言ふ人はあるが、さう云ふ事は言はないとして、そこで今信じて居るに否に拘らず宗教云ふものゝ人生に於ける意義を云ふものは、信じて居る人でなくちやならぬ云ふ事が根本であります。妙な事を言ふ様であります。今宗教を信じて居る人で……自ら稱して居る人で、人生に於ける宗教の意義を本當に知らぬ人だつてあります。宗教を信じて居るに自分で言つて居る人、自分宗教の關係は知つて居るか知らぬが、お蔭様で眼が治つたか、

齟齬が治つて、金が儲つた云ふ事は知つて居るが、人生に宗教の關係は知らぬ人があります。今現に宗教を信じて居ないけれども、人生に宗教の關係を充分によく知つて居る人もあります。そこで私は、人生に宗教の關係をよく知つて居る事が先づ必要だ。ここに依りましたならば、餘りにも人生に宗教の關係を最も高きところで考へ過ぎるが爲に、今實際信じ得られない人もあるかも知れぬ位でありますから、そのところを私はハッキリ申して置きます。

第二には、吾々の相手にして居ります子供の生活の中に、宗教的なものが存在して居る。持たれて居る云ふ事を知つて居なければなりません。——私この間京都に参りました。京都等でお寺に行く……相済みませぬが、宗教ぢやなく、宗教美術を拜見さういふ事でお寺に行く、或は、宗教のお寺に行けば人間が居なくて涼しい云ふのでお寺に行つたりする。所がさう云ふ積りでお寺に行きましても、大勢やつて来て居る人がある、殊にお爺様お婆様がやつていらつしやる。この善男善女に宗教が持たれて居る云ふ事は、直ぐ私の頭に分る。みんなは宗教的なものが持たれて居る云ふ事がハッキリ私に認識出来る。私は皆さんに斯うしてお目にかゝり乍ら、此處に集まれる善男善女がさうか知りませぬが……皆さんの心の中に、いさもやさしき心臓を持たれて居る事を、私はちゃんに認めて居るのであります。中には非常に強過ぎる、心臓の人もあるかも知れませぬが、兎に角、心臓が、タントもないが一つ宛ある事を認めて居る。或は皆様の頭腦には優秀なる智能がある事を認めて居る。木石にあらざる事を認めて居る。或は皆様のポケットの中には、相當なお金が這入つて居るこゝをも、じろつと睨んで居る。唯私はそれを混雜に紛れて拘らうと思はぬ丈で(笑聲)認めては居ります。

その意味から、幼稚園に来て居る子供を見て、何を持つて居るに認められますか、幼児本能を持つて居る事を認めます。中に自發活動を持つて居る云ふ事を認めて居る。中には「持つて居るか?」と着物を脱がして「何處にあるか、なければ家に歸つて持つて来い!」等と言ふ人があるが、兎に角自發活動を持つて居る事を認めて居る。道徳性も認めて居るし、或方

は非常なる藝術性のある事も認めてお出でになります。宗教的なものを持つて居るであらうか云ふ事に就て認めていらつしやるかいらつしやらないか云ふ事は、他の場合も少しく違ふぢやないか私に思ふ。何も私がお寺で善男善女を見て、持たれて居る宗教に私自身が壓迫される程に、お認めになる必要はないけれども、けれども、空っぽと思つちやいけないのであります。「先生、今日は家のね、お爺さまのね、御命日でお墓に行くの、それで少し早く歸るの」云ひます時に「さうを、さうして後で御馳走があるの？」云つて了ふのは、少し認め方が足りない。何もお寺に行くから云つて、湧き上る程の宗教があるかないか別問題ですけれども、宗教なんかさうでもない、歸りの御馳走を本體とする云ふ先生自身の様な心理で、幼児を解釋しては少し足りませぬ。「明日はクリスマスよ」「さうを、御馳走クリスマス……」云ふ様な、さう云ふ下等な事を言つちやいけないのであります。或はお庭に出て大きな銀杏を見て子供が「あゝ！」なんて言つた時に「大なる植物……」なん云ふ丈では困るのであります。そこには何も天地人の自然——それが濃厚にあるかさうか知りませぬが、ナチュナルレリチュアース……これを認めるかさうか、これは誰にも本能がある如く、ごの子にも宗教性があるかさうか云ふ事は理論の問題になりますが、兎に角今日の家庭と社會から宗教的なものを考へて來て居るであらう云ふ事を、その子に就ては見落してはならぬのであります。私は、その子に親がある事を忘れてやる先生が居たら餘程呑氣だと思ふ。「あらまあ、さうを？お父さんがあつたの？……今迄氣が付かなかつた。父に對する孝行云ふ事は説かうと思つて居たが、あんたがお父さんを持つて居る事は氣が付かなかつた」云ふ人があつたら、實に亂暴であります。孝行だけ教へて、その子に父がある——そのお父さんは會はない方がいゝので、會つたら實に低級なる、髭ムシヤな下等な人も知れませぬけれども——その子のお父さんがある云ふ事を認めて始めて教育が出来るけれども、認めなかつたら大變だ。けれども、そんな馬鹿な人はありますまい。だから始終父がある云ふ事を認めて「お父さん、御丈夫です

か？」か「お父さんはあんたを可愛がるだらう」か、色々その氣持でやつて居る。所がその子供が朝、天なる父よを祈をして出て来る時に、天なる父をその子を持つて居る事に就て、理窟を言ふ人は「あなたには父だらうが、私には父でない」を力むおかしい。その子は、天なる父よ——幼児ですからされ丈の深さで言つて居るか分りませぬが、まあさう云ふ考を持つて居る事を認識して居なくちやならないと思ふのであります。斯う云ふ事で、宗教教育の問題が始まるのであります。

○

即ち幼稚園の子供達が、宗教に關する何物かを持つて居る。勿論形に依りましても色々の區別がありますが、中には通りすがりに往來で、何時でも自分が幼稚園へ来る途中のお宮のところで人が叮嚀に拜んで居る云ふ様な事實を、何もなく唯通りすがりに見て来る云ふ程度のもありません。或は又家庭に於きまして相當に濃厚に強く宗教的なる感化を言ひますか……影響を受けて居る場合もあります。そこに色々子供の、勿論形は違つて居るのですが、その持つて居るものを、若しも吾々が人生を宗教云ふ形に於て意義あるものとして居りましたならば、そこに折角子供の持つて居りますさう云ふものを、吾々は粗末にしてはならない事になるのであります。此方から進んで、子供が持つて居ない物を、宗教教育の名に於て與へて行く云ふ様な事は、これは先刻うるさい程繰返し申上げました如く、我國の教育の建前として許されませぬ。「皆さんは知るまい」斯う云つた様な事で、自分の信仰……先生自身の信仰を子供に押しつけて行く云ふ事は許されませぬ。併し乍ら、子供自身が既に持つて居りますもの、而もそれは人生の意義に於て持つて居るを認識して居ります。その時に吾々はそれを粗末にする事は許されないのであります。その、粗末にしないで就てはさう云ふ事をするかと言へば、今丁度その子を持つて居りますものを、それを更に積極的に育つて行く云ふ事もその一つであると思ひます。併し乍ら、その積極的に育て、行く云ふ方になります云ふは、これは餘程氣をつけなければ、先刻來心配し

ました餘りに積極的な宗教教育態度にならぬも限りませぬ。持つて居ないから言つても、持つて居る言つても、此方からグッ押しつけて行く事も、そのやり方は餘程氣をつけなければならぬと思ひます。そこでその意味に於て、粗末にしない云ふ事が二つになりまして、一つはその子供が持つて居りますそれを、もう一つ育て、行く云ふ積極的な生活を立てるのに對しまして、そこ迄は行かぬけれども、例へば青年なんかの場合には、相當積極的に行つてもいい。向ふが、積極的に積極的に行かうとして居るから、グッも行つてもいいでありませうが、其所迄は幼児に危険であると思はすれば、その幼児の持つて居りますその程度のところで、これは宗教に限らず、幼児の精神、教育盡く同じ譯でありませんが、その持つて居る程度のところで、一ぱいぐにそれを是認し、その心持を——何ぞ申しませうか。許す言ふ餘り軽い言葉であります——それを別に煽り立てたり、引伸さう主張するところ迄は、世間も何所迄も一杯に取扱つてやる事があります。そこで例へば子供が始終通り掛りのお宮で、神様につましくお辭儀をして居る人の後姿を見まして、何もなく或氣持がそこにある。その一杯の氣持のそこには、此方もそれを認めて行かなければならないのであります。これは餘程細心なる注意を以てやる可き事であると思ひます。

而も極く實際の問題として——少し失禮な言ひ方ではありますが——若し、持つて居りますものを認識しなかつたならば……無視して了つたならば、これは其所迄の事が出来ないものでありまして「さうですか、何か譯があるんでせう」か、極めて此方が下等な解釋を、宗教に下して居ります。その場合に於きましては、その子供は、その神様にお辭儀をして居る人は、そんな積りでやつて居るか知りませぬ。「あのね、毎朝若い女の人がお辭儀をして居るの」に嚴肅な顔で來た時に、先生が直ぐに「あれはね、縁談成立の爲よ」と言つてやれば、それは事實かも知れませぬが、幼児はさう思つて居りませぬ。唯そこにある宗教的な後姿云ふ様な感じを持つて居るのでありますから、その所を一杯に「さうですか」を取扱

つてやる事は、非常に必要であると思ふのであります。直ぐに又「あなたもね、後について一緒に祈りなさい。その人が幾らお賽銭をやるか見て居て、それより一錢多くやりなさい」を積極的に引張る必要はないが、宗教本質の一杯に於て取扱ふべき云ふ事は必要であります。折角持つて居る宗教的なるものを……私は言ふ。而も更に、若しそれを否定して丁ふ様な事があつたら、……それを潰して丁ふ様な事があつたら、亂暴であります。訓令はハッキリ言つて居ります。「折角幼児が家庭乃至社會に於て得たる宗教的なるものを潰すのは惜しい」を言つて居ります。誠に適切なる言葉であります。折角子供が道端の花を見て「きれいなものよ」を言つた時に、先生が、「花屋に行けば幾らもある」を言つてはいけません。は言ふ迄もないが、宗教に關しては、一層捉まへべきころのないだけに、先生の注意は微妙になつて來ると思ふのであります。

そこで、折角持つて居るものを——これを、この材料をもこにしてぐんぐん引上げて行かう、あなたも拜んで居る許りでなく拜まれる人にならなければならぬ、を云ふ、こゝ迄やつちやいけないが、子供の氣持を宗教の本質に於て、それを一杯に取扱ふ事をしなければいけないし、それを潰して丁ふべき云ふ事は、罰の當る事であります。斯う云ふ意味で、その宗教の、子供の持つて居るものを正しく取扱ふ事は必要と思ふ。

さてその場合に、教育方法上の問題として缺く可からざる事は、斯う云ふ事柄が、如何に個人的な事であるか云ふ事は申す迄もありません。朝、子供を集めて「宗教を持つて居る者、手を舉げて見ろ。後姿を見た者、手を舉げて見ろ。何なく感じて居る者、手を舉げて見ろ」。「大多数を認める故に、さうでない者も我慢して聽け！」を云ふこんなやり方は、實に不都合、不適當であります。さうか云つて、持つて居る者を一人々々密室に呼んで、その子供がお寺の前を通つたと言へば衣を着て、教會の前を通つたと言へば十字を切つて、一々やり出したら大變であります。佛教指導部屋、キリスト教指導部屋

さ拵へなければならぬ。さう云ふ事でないけれども、所謂その子の個人の問題……私は、子供を集めて「家に佛壇のある人、手を擧げて御覽」なん云ふ話を聞くミヅッミします。「この中にお母さんの居る人、手を擧げて御覽。お前のお母さん死んぢやつたか……」實に亂暴な話であります。家庭内のデリケートな問題云ふものは、全然秘密ぢやないが、個別的であります。心の中の問題云ふミ、子供の場合、大袈裟であります。宗教は、大人でも個人的に話す問題でありますから、幼児の場合も、個人的に取扱ふ。個人的に取扱ふミは、その子（ ）のさう云ふ問題に對して、よく研究して居なければならぬ。幼児の家庭を調べて、宗教が何であるか云ふ事を訊く。到底我國に於てキツバリした答は出ませぬ。先祖傳來佛教なる由、ミ書いてあるのが多いので、此方もそれをさう讀んでいゝか分りませぬが、親に會つて問ひ訊す譯ではないが、色々なコツでその事を知らなくちやならぬであります。實際家庭の事を知る云ふのは却々難しい。戸籍係ぢやないから、聞くことそのことが、さう云ふ影響を及すか云ふ事迄考へなければならぬから難しい。

私は、面白い例を最近持つて居る。友人の奥さんが病氣で寢て居る云ふ事を聞いて、みんな友達が知つて居る。さうして、さうして居るだらうミ電話をかけるが、何の病氣か？ミ言ふミ、知らぬミ言ふ。私も電話をかけた。所が世話をし居る人が出て色々話をして、さうも「何の御病氣ですか？」ミ云ふ事が訊けない。それはお大事に、絶対安靜、へエ……ミ引下つて了つた。他の友達に言ふミ「へーお大事に、ミ言つて、君は病氣を知らぬのか……」ミ言ふが、一昨日から昨日にかけて、誰も病名を追求する事が出来ない。向ふは、病氣が病氣ですから……ミ言つて居るが、そんな事を言はれるミ尙更訊けなくなつて了ふ。さうしたら非常に上手な男が居て、うまくそれを聞きました。さうして、一寸重い病氣であるミ云ふ事が分つた。あなた方の知らぬ人ですから言つてもいゝが、個人の病氣は、知らぬ人にも言ふ可き事ぢやありませんから言ひませぬ。そこで、その病人自身が言はない限り、聞く事は容易でないのでありますが、中には、自己の病氣を、

知らぬ人に迄「小生尠しく病氣相成御見舞の儀は敢て辭退致さず候」云ふ手紙を出す人もありますが（笑聲）然し普通は個人の祕密です。

さう云ふ譯で、家庭の子供の宗教なんか、取つてしまへて親に聞く事は容易ぢやありません。然し私は聞いて頂き度い。何ミか個人的に知つて居つて、宗教の傾向、宗教の心持……「あなたは日蓮宗か、さうか」それでお終ひぢや仕様がありません。「あなたキリスト教か、新教——新しいね。舊教——古いね」これでは困りますので、そこらの事は分つて居なくちやなりません。

それで、個人的ではありますが、これは育て、やり度いと思ひます。私が持つて居る宗教を、その子の一生の宗教にさせる義務はありません。「あなた幼稚園に来て居る時はキリスト教だつたけれども、今は佛教か」言つてもちつとも構はぬのであります。私達の方で別に責任を背負ふ譯ぢやありません、今持つて居るものを育てる。「私が斯う云ふ信仰になつて居る。あの時違ひますが、あの時の信仰を素直に育て、下さいました爲であります」云ふ事も有り得るのであります。教會やお寺迄は、其所迄は行かうと思いますが、學校ではそこ迄はしません。けれどもそこはそこで、個人的に大事にして行く。これは非常に大事な事だと思ふのであります。

私は又餘計な事を一つ思ひますが、心身を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養すればそれでいゝんだらう云ふ様なやり方でなく、それはそれですけれども、その中で、一人々々にはそこ迄チャン／＼／＼、あなたの心臓の鼓動の数は幾つ、ノルマルだ、云ふ他に、あなたの脈の搏ち方は強い弱いまで知つて居るお母さんと同じに、先生が子供の心の問題に迄觸れて来るミ、幼稚園に或しつゝりしたものが出て来るのであります。同時に、若し人生に於ける宗教云ふもの、價値を認め、宗教的精神の偉さを、本當に偉いミ認め、さうして人生の教育者としての教育者で幼児に臨んでいらつ



しやるならば、其方からの皆様の影響ミ云ふものが恐らくあらゆる場合に種々な教材に於て取扱はれて来るであらう云ふ事も思ふのであります。

○ 今日多くの幼稚園の先生方が、實に達識有識、有識有達識でいらつしやるのであります。ここにようになりましたならば、日本人全體の通有性の名に洩れずして、宗教的事實の歴史的價値なんミ云ふものに就ては餘りお調べになつて居ない方も、多いかと思ひます。日蓮上人、これは偉いもんだぜ、うんミ來たつて刀が折れる、日蓮上人を信じれば佐渡の島にも渡れる、ミ云ふ事は知つて居るでせうけれども、ミこが本當に偉いか知らぬ。親鸞上人は他力ださうだ、樂だぜ、任して置けばいゝと言つた、ミ云ふ様な事で、何所が本當に偉いか少しも御承知なかつたならば、私はさう云つた文化が皆様の教育の中にさう入つて来るかミ云ふ事に就て問題だと思ふ。

學校の生徒が關西に旅行します。さうして、京都だの奈良のお寺様を見物します。その時に、色々な事を言つて居りますが、お寺に行つて、これが何宗だミ云ふ様な事は無頓著な連中が澤山居るのであります。吾々立派なお屋敷を拜見すれば、これは誰方ですかミ卑しい程訊く。誰でもいゝぢやありませんか、松の工合、岩の工合、いゝぢやありませんか、庭を見に行つた筈なのに、「誰のですか？これだけの物を持つて居れば相當の値段で御座いませう」ミ直ぐ訊くのであります。それで居て、お寺の主人を知らぬのであります。何でも、唯お寺ミ言ふ。それが何宗であるかを知らないから、その人がお参りして居る氣持がちつとも分りませぬ。みんなが一列に郵便切手を買つて居る時には、何處で買つて居ても同じです。中央郵便局だらうが長崎の郵便局だらうが北海道の郵便局だらうが、中野のちつぼけな郵便局であらうが、三錢、二錢、四錢の切手を買つて居る丈であります。けれどもお寺に參つて居る時は、みんな違ふのであります。中には「何處で

もいゝよ、便利な方がいゝよ」を郵便切手でも買ふ積りで行く人がありますが、自分のお寺でなければ、行く譯がないのであります。これが宗教の特質でありますが、その所が分つて居ない。ですから、宗教の取扱ひ方が正しく行つて居ないのであります。人類の生産した偉大なる文化を云ふ、この尊いものゝ取扱ひ方をして、教育者の不用意さ云ふものは、大きな問題と思ふのであります。けれども、皆さんが直ぐそれを御研究になつたから云つて、幼稚園ですから残念乍ら皆さんの蘊蓄を傾ける譯に行かぬ。桃太郎でもあるまい、金太郎でもあるまい、親鸞、法然比較論をやるからその積りで聽いて居ろ、云つた様な譯に行きませぬ。ですから、蘊蓄を持つていらつしやるが、それは言へないんです。けれども私は、幼児に富士山の美を説く人、淺間山の美を説く人、十和田湖の美を説く人、箱根の湖水の美を説く人、それ等が、矢つ張り相當なところ迄知つて居なければ説けないと思ふ、「それはね、アルプスの山でも、富士山でも、要するに高いんですから……」それは濱名湖であらうが、松江の眞珠湖であらうが、要するにこれは水が溜つてるんだよ……」——甲州の、海を見た事のない人があつて、海の話をするがさうしても子供に分らないので困つて「お前のところに鹽があるだらう、あれの擴つたものだ」云つた、(笑聲)さうもその人も、東京灣を知らないんぢやないかと思ふのであります、東京灣と相模灣と大阪灣と、そこらの區別を知らないぢやないかと思ふ。ですから、宗教に就ての一通りの知識を持つていらつしやらぬと、子供が持つて居る宗教的なるものを、一杯なるところで指導する云つても、出来ないであります。「さうも私の組にキリスト教の子供が入つて来て、御飯の前にこんな(眼をつぶる)事をする。あの子が一人居る爲に、統制が取れなくて困る、變な子でね、早く食つたらいいのに……」あれは習慣でせう、云つて了つたならば問題になりませぬ。そこには、家でやつて居るからして居るんですから、その子の生活としては淡いものですから、止せと言へば止すのでありますけれども、それが一體何であるか、これが分つて居ない、先生はその子を指導する事が出来ないのであります。

私は、こゝらに於きまして、宗教を云ふ問題を取出して來ました。幼稚園の先生方の、子供が持つて居るものを教育する爲に先生自身が先づ持たなければならぬものが殖えました事を、誠にお氣の毒に思ふのであります。これは幼稚園に限りませぬ。何處もさうであります。而も文部省令が「折角兒童が、家庭なり社會なりに於て持つて居るものを大事にしなければならぬ」。と言つて居る限りは、教師は其方の事に就て研究して居なければならぬを云ふ問題になるのであります。これがまあ實に難しいのであります。中には、「いや、先生の説は實に賛成する、現に私のところでもその通りやつて居る。強烈なる宗教教育をやつて居る。他の事を何もしない程宗教教育をやつて居る」を仰言る方があるが、さうかするに、その場合は、その先生の持つて居る宗教の教育は出来るが、子供の持つて居る宗教の教育は却つて出来ない場合があるかも知れない。そこを私は申して居ります事を、お聴き願つて置き度いのであります。

まあ斯う云ふ意味で、宗教教育の一般的な訓令をもにしましての問題を考へて、幼稚園を云ふ單なる、善良なる性情を涵養すればいゝ處ですけれども、文化をいふものに結びついて私達の教育活動が行はれて行く時に、この問題が大きな問題になつて來る、又注意を要すべきものであるを云ふ事を申上げたのであります。

然らば、さう云ふ様な、人類が歴史に持つて居るもの、斯う云ふ意味で要領は決つて參りましたが、その宗教的指導を云ふ事に就て、一宗一派の問題でなく、今度は人間生活そのもの、本質としての宗教的教養の文化を基本に結びつきは、さう云ふ點に注意を要すべきであるかを云ふ内容問題に入りますが、これは明日入らうと思ひます。

# 日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一  
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三  
 附屬幼稚園主事

## 日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
  - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
  - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
  - 一、雜誌發行(毎月一回)
  - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
  - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
  - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認めタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
  - 會長 一名 會務ヲ總理ス
  - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
  - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
  - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

### 定規文注

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵共)で願ひます。(郵券代用の場合は總て割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

### 製複許不 載轉禁

### 發行所

東京市小石川區大塚町三十五  
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内  
 發行所 日本幼稚園協會  
 振替口座東京一七二六六番  
 編輯者 倉橋 惣三  
 印刷者 柴山 則常  
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
 印刷所 會政 杏林 舎

### 價定

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁二面一頁
半年分	金貳拾錢	金貳拾圓金拾圓
一年分	金四圓貳拾錢	金拾五圓金拾圓
拾貳冊送金四圓貳拾錢	共	神田區駿河臺ノ三品田
拾貳冊送料共		廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)  
 昭和十二年十月十三日印刷納本  
 昭和十二年十月十五日發行

幼兒の教育 第三十七卷 第十號

# 幼 兒 の 保 健 ・ 體 育 の 向 上 に

時局に鑑み、各幼稚園とも運動具の設置を叫ばれて居ります。

此際弊社は國民精神の涵養を、第一にお子様方の體軀の健全なる發育に置き、物價暴騰の今日を左記定價によつて各園の御施設を完からしめ御満足を購ふて頂くやう努めて居ります。即ち

- 棹登り 壹五〇圓
- 大型シーソー 八五〇圓
- 鐵製廻轉滑臺 五五〇圓
- 曲線滑臺 壹壹〇圓
- 大型鐵製滑臺 壹〇〇圓
- 波動廻轉塔 壹貳〇圓
- コンビネーション運動具 壹四〇圓
- 鐵製椅子ブランコ 壹貳〇圓
- 鐵製ブランコ二人乗 六五〇圓
- 新案遊動木 七〇〇圓
- 鐵製廻轉シーソー 九〇〇圓
- 廻轉馬シーソー 貳〇〇圓
- 鐵製シーソー二人乗 壹五〇圓
- 鐵製廻轉スケート 四五〇圓
- 投輪(一組) 六〇〇圓
- 鐵製バスケット 貳貳〇圓
- 太鼓梯子 六五〇圓
- 新型メリーゴーランド 九〇〇圓
- 波動廻轉馬 八〇〇圓
- 大阪遊動木 八〇〇圓



## 株 式 會 社 レフ・ベール・食

本社 東京 神田 二丁目保神 (33) 電話 三六六二番  
 支店 大阪 東區 五丁目後備 (24) 電話 八三九一番